

小泉産業株式会社グループ コミュニケーションレポート

COMMUNICATION REPORT 2012



新しい着眼と独自の発想で 新たな価値を創造し 人と社会に夢と感動をつくり出します

編集方針

小泉産業株式会社グループは、CSR(企業の社会的責任)活動を報告するため2004年から毎年レポートを作成しています。レポートには、目的とメディア特性に応じて、冊子とWEBサイトの2種類があります。

冊子(本レポート)

本レポートは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのさらなる活性化を目的に、当社グループと社内外のステークホルダーの皆様との“対話”を中心に編集しています。お客様や協力会社をはじめ社外のステークホルダーの皆様からのご意見・ご要望を掲載するとともに、仕事に対する従業員の想いを多数紹介しました。

WEBサイト

CSR活動をできる限り網羅的に報告することを目的としています。「グループ全体」に共通した取り組みと、ステークホルダーや事業内容が異なるグループ内の主要2事業である「照明事業」「家具事業」に分けて報告しています。また、それぞれ「社会」「環境」への責任と課題、それらに対する取り組みについて報告しています。

▼「社会」と「環境」への取り組みWEBサイト
<http://www.koizumi.co.jp/csr/index.html>



報告対象組織

本レポートでは、持株会社である小泉産業(株)と国内事業会社5社、合計6社の取り組みについて報告しており、その詳細は以下のとおりです。(レポート中では、小泉産業を「当社」、報告対象組織全6社を「当社グループ」と表記しています)

- 小泉産業(株)
- コイズミ照明(株)
- コイズミファニテック(株)
- (株)ハローリビング
- コイズミ物流(株)
- コイズミ情報システム(株)

報告対象期間

2011年4月1日から2012年3月31日まで。
(当社2011年度)

発行日 2012年7月
(次回発行予定 2013年7月)



シンボルにあるダイナミックウェーブは生活文化(Culture)、発信(Communication)、挑戦(Challenge)の頭文字「C」、Life、Living、Lightingの頭文字「L」、小泉産業グループの頭文字「K」を、躍動する波の姿にまとめたもので、常に社会に新しい価値を発信し続ける小泉産業グループの姿勢をあらわしています。

INDEX

編集方針	1
報告対象組織／報告対象期間	2
小泉産業株式会社グループの概要	3
小泉産業株式会社グループの製品領域	5

経営者からのメッセージ	7
-------------	---

■ コイズミ照明(株)の取り組み

取り組み①	照明専門メーカーとしての環境責任を果たすため、LEDモジュールの製造を開始	11
取り組み②	「LED導光板照明」を共同開発し、お客様の「環境配慮型オフィス」計画に導入	15

■ コイズミファニテック(株)の取り組み

取り組み①	お客様の声を聴き、製品開発に活かすコイズミファニテックのモノづくり	19
取り組み②	元氣なシニアの生活空間をサポートするソリューション事業を展開	23

■ (株)ハローリビングの取り組み

オフィスや店舗の照明・空調設備の省エネを提案	27
------------------------	----

■ コイズミ情報システム(株)の取り組み

BCP対策として、基幹システムの安全対策の強化に着手	28
----------------------------	----

■ コイズミ物流(株)の取り組み

春日部営業所を24時間運用にし、最適な物流サービスを提案	29
------------------------------	----

■ 小泉産業(株)の取り組み

グループ全体で、働きがいのある会社をめざします	31
グループ全体で、社会的価値の向上をめざします CSRマネジメント／環境マネジメント／コンプライアンス／リスクマネジメント	33

■ KOIZUMI TOPICS

東北3県の児童養護施設に学習デスクを寄贈しました	35
--------------------------	----

KOIZUMIブランドのあゆみ	39
-----------------	----

小泉産業株式会社グループ各社の概要	41
-------------------	----

編集後記	42
------	----

快適空間を提供する 価値創造型企業グループとして

照明事業 Lighting	家具事業 Furniture	住設販売事業 Home fitting Sales	物流事業 Distribution	情報システム事業 Information system	グループ統括 Group generalization	
「あかり文化」の創造をめざして 住宅照明と店舗照明を事業領域に、照明器具の企画・開発から各種空間の照明設計までをトータルに展開。あかりによる快適な空間づくりを通して、新しい「あかり文化」の創造と省エネに貢献できる製品提供をめざしています。	暮らしを「科学」し快適生活を提案 子どもの成長を支える「学習家具事業」を中心に、高齢者向けの介護機器等の販売・レンタル事業を展開。人の暮らしを「科学」し、子どもや高齢者の健康・安全と環境に配慮した製品・サービスを提供しています。	インテリアから家電、内装材まで 各種インテリア製品や内装材などの住宅設備機器の販売・施工サービス事業を全国に展開し、快適な生活空間をトータルに提案しています。	価値あるロジスティクスを創造 グループ内各社のロジスティクス機能を担う一方、培った経験とノウハウを活かし、幅広い業界のお客様に最適な物流ソリューションを提供しています。	最適なシステム環境の創造に貢献 人間力と技術力により新しい価値を創造し、幅広い企業のニーズに応じたシステムの開発・運用・保守サービスを提供しています。	「価値創造の専門集団」をめざして それぞれの事業領域で専門性を発揮するグループ各社を統括し、KOIZUMIブランドの価値向上をめざしています。	
コイズミ照明株式会社 照明器具の企画・開発・製造・販売 コイズミ照明デバイス株式会社 照明器具部品の販売および輸出入、照明器具組立 コイズミライティング株式会社 照明器具の製造 青垣コイズミ照明株式会社 照明器具の製造	小泉産業(香港)有限公司 照明器具の企画・製造・販売 東莞小泉照明有限公司 照明器具の企画・開発・製造・販売 克茲米商貿(上海)有限公司 照明器具の企画・販売 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司 家電・照明器具の企画・開発・照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス	コイズミファニテック株式会社 学習環境家具および介護機器などの企画・開発・製造・販売 小泉家具(大連)有限公司 学習環境家具の販売 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD. 家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用什器の企画・開発・製造・販売	株式会社ハローリビング 住宅設備機器の販売・取付工事 株式会社サンシャイン 住宅設備機器の販売・取付工事 コクブライト株式会社 住宅設備機器の販売・取付工事	コイズミ物流株式会社 物流事業・倉庫業・物流システム開発販売業務	コイズミ情報システム株式会社 IT関連のソフト開発およびコンピュータ機器販売	小泉産業株式会社 持株会社として、グループ統括機能と各社の事業の管理・監督

小泉産業株式会社グループ

本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7

代表者 代表取締役社長 梅田 幸孝

創業 1716年(享保元年)

設立 1943年6月25日

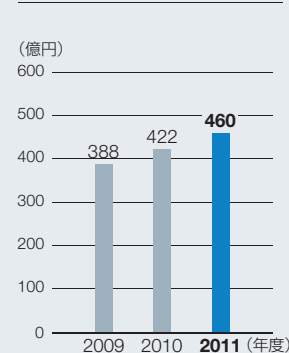
資本金 1,575百万円

従業員 1,423名(連結)

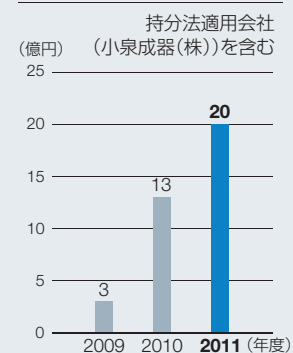
グループ会社数 17社(うち連結対象9社)

売上高 46,017百万円(連結)

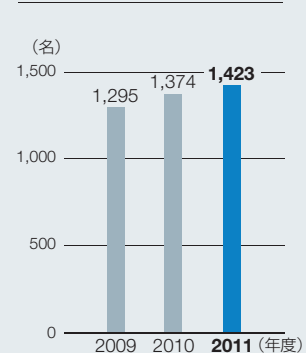
グループ売上高推移(連結)



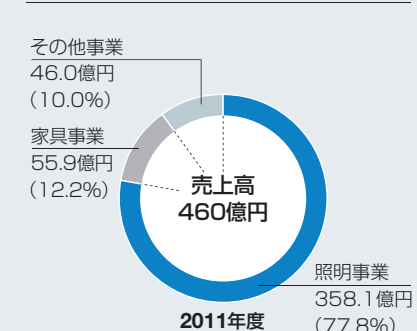
グループ経常利益推移(連結)



グループ従業員数推移



事業別売上高構成(連結)

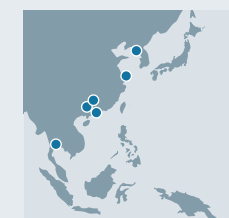


小泉産業株式会社グループの営業所ネットワーク

国内 57営業所

国内子会社 10社

海外子会社 6社



さまざまな空間に新しい価値を提供しています

当社グループは、照明事業、家具事業の領域において、住宅や店舗などの商業施設、オフィスなどの業務施設、公共施設などのさまざまな空間に新しい価値を提供しています。

住宅で

毎日の暮らしを快適で魅力的にするため、住空間のあかりをLED照明でトータルにプロデュース。また、子どもたちのための学習環境家具や、高齢者の暮らしをサポートする各種家具を提案しています。



ベッド足元側をLEDダウンライトで
やさしく照らし、枕元の低い位置
のLEDブラケットでくつろぎを演出
する多灯分散照明



マット仕上げのセードで
柔らかな全般拡散光を放つLEDダウンライト



防雨・防湿性能をもつLEDダウンライト



人感センサ付き
LEDポーチ灯



お子さまの成長に合わせて
スタイルを変えることができ
るリビング用学習デスク



LED照明付きの
電動リクライニングベッド

プライベートスペースを
自分らしく演出する
ホームオフィス家具



商業施設で

物販、飲食などの商業施設を個性あふれる空間にするための
最適な照明プランを提案しています。



有楽町ロフト(東京都)



てんぷら那かむら
イオン香椎浜店(福岡県)



THE NORTH FACE 3(march)
(東京都)



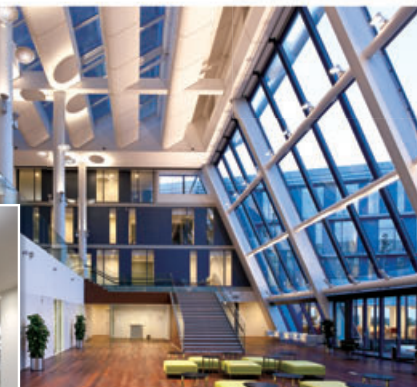
業務施設で

日々、多くの時間を過ごすオフィス
などの業務施設を快適で、仕事の
はかどる空間にする照明プランを提
案しています。

大和ハウス愛知北ビル(愛知県)



第一三共株式会社 新研修施設
「NEXUS HAYAMA」(神奈川県)



公共施設で

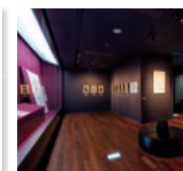
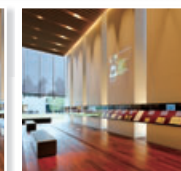
多くの人々のコミュニケーションの場である公共
施設に、多彩な照明プランを提案しています。



ホリスティックヘルスプラザ かごしま(鹿児島県)



東洋文庫(東京都)



グループ一丸となって 新たな価値創造と社会への貢献をめざします



前列

① 小泉産業(株) 代表取締役社長 梅田 照幸
 コイズミ照明(株) 代表取締役社長

② コイズミファニテック(株) 代表取締役社長 永安 勝壽

後列

③ (株)ハローリビング 代表取締役社長 石尾 泰裕
 ④ コイズミ物流(株) 代表取締役社長 阿部 邦夫
 ⑤ コイズミ情報システム(株) 代表取締役社長 権藤 浩二

「4つの責任」を果たし、「5つの価値」を高める

小泉産業株式会社グループは、持株会社の小泉産業を核に、主力の照明・家具事業を含む5つの戦略子会社と国内外11の機能子会社からなる企業グループです。新しい着眼と独自の発想による新たな価値創造と、夢と感動の提供を理念に掲げ、暮らしのさまざまなシーンに最適な「あかり」を提供する照明事業、お子様の学習環境を科学し、健やかな成長を支援する家具事業、さらには物流、情報システムまで幅広く事業を展開し、独自の創造力と提案力で新しい価値を提供し続けています。

2006年、グループ経営体制に移行したことにとともに、私たちにとってのCSR(企業の社会的責任)は、「4つの責任(経済的責任、社会的責任、環境的責任、倫理的責任)」の遂行を通じて、「5つの価値(顧客価値、社会価値、人材価値、業務プロセス価値、財務価値)」を高めることであるということを明確にしました。

こうしたCSR経営を進めていくためには、収益を上げることはもちろん、一人ひとりの従業員が働きがいと誇りを持ち、お客様満足の向上をめざしていくことが重要であり、それこそが私たちのCSRの原点と言えます。2009年からスタートした第2次中期経営計画でも、「強い会社づくり」を掲げ、会社を構成する従業員がやりがいや誇りを持てる企業風土づくりに努めてきました。



次の成長をめざす礎が整った第2次中期計画最終年

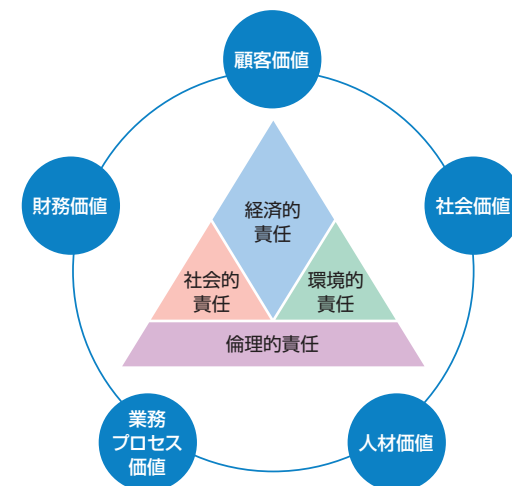
グループ経営に移行後の6年間を振り返ると、当社グループを取り巻く環境には大きな変化がありました。建築基準法の強化による住宅着工戸数の減少やリーマンショックによる世界的な金融不安、さらには震災や原発問題など、これまで経験したことのない事態が相次いで発生しました。また、タイで発生した水害によって、当社のサプライチェーンも少なからぬ影響を受けました。

そうした中で迎えた2011年度は、第2次中期計画の最終年度の総仕上げとして取り組んだ結果、グループ経営に移行した2006年度の業績にまで回復しました。数字だけで見ると横ばいですが、恵まれた環境ではなかった分、従業員一人ひとりが自ら考えて動き、新たな市場の開拓に取り組み、外部の変化への対応力をつけられたことは大きな収穫です。2012年から始まる第3次中期計画に向けて業績を上げていく良い訓練期間となったのが、この6年間であったと捉えています。

小泉産業株式会社グループの理念

社是
人格の育成向上
グループ経営理念
新しい着眼と独自の発想で 新たな価値を創造し 人と社会に 夢と感動をつくり出します
グループ行動理念
●積極果敢にチャレンジし、目標を必達します ●自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます ●互いに学び、人間力を高めます ●現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します ●三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります ●社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します
グループビジョン
私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

「4つの責任」と「5つの価値」



経営者からのメッセージ

2011年度、基幹事業である照明事業については、従来から進めてきた積極的な海外展開が実を結び、また、国内においてもLEDの販売が前年度比300%となるなど好調でした。2011年12月、グループの製造会社であるコイズミライティングにLEDモジュールの生産工場を新設し、ここでの操業を含め今後、グループの生産力の増強を進めていく計画です。

もうひとつの基幹事業である家具事業については、子どもたちの学習空間を真剣に考えるKOIZUMIならではのオンリーワンの提案が評価され、経常利益が安定して出せるようになり、次の成長に向けた礎ができました。また、シニア世代の住空間家具という新しい分野の事業も行っており、少子高齢化という社会課題に取り組む事業として着実に成長しています。

また、インフラ事業としての物流事業は、グループ内物流で培ったノウハウを活かした外販部門が好調です。情報システム事業においては、新しいホストを導入し、グループの各事業会社が共通の情報インフラとして活用できるシステム構築を進めている最中で、新しい時代に対応した物流・情報が24時間体制で稼働できるようになれば、お客様に提供できる利便性をもっと広がっていくと期待しています。



「挑戦」をキーワードに、新たな時代を創造していきます

一方、次の時代を創造していくための課題が明らかになったのも、この6年間の成果です。これこそが、第3次中期経営計画(2012-2014)の最重要課題に掲げた「新時代の変化に挑戦する」というテーマです。市場環境が大きく変化する中で、私たちが社会的使命を果たしていくためには、変化に対応するだけではなく、世の中やお客様の変化を予測し、「挑戦する」ことが不可欠です。また、サブテーマとして掲げた「環境が人をつくり、時代が人を変える」には、一人ひとりが時代を変えるくらいのやりがいを探せるような、人が育つ環境をつくろうという意味を含めました。

具体的には、「人材のプロフェッショナル化」「新しい顧客・商品の創造」「成長に向けた戦略的投資」という3つに私たちは挑戦していきます。

一つめの「人材のプロフェッショナル化」ですが、時代の変化に挑戦していくには、経営陣を含め全員がそれぞれの持ち場でプロになる必要があるということです。自分が何のプロになっていくのか、従業員が目標を明らかにしていける場として、「コイズミアカデミー」という教育の仕組みもスタートさせました。

人材がプロフェッショナルとなって初めて、二つめの「新しい顧客・商品の創造」が可能になります。人事評価においても、新しい顧客・商品を創造するために、可能性に挑戦していこうとする人たちをきちんと評価できる制度づくりを進めていきます。

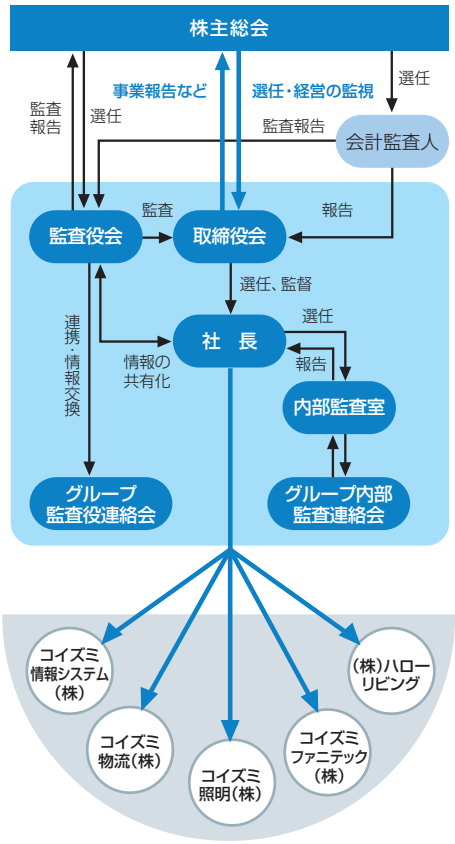
■ 新中期経営計画

第三次中期経営方針 2012~2014

新時代の変化に挑戦する
～環境が人をつくり、時代が人を変える～

①人材のプロフェッショナル化を進める
②新しい顧客・商品の創造を行う
③成長に向けた戦略的投資を行う

■ グループガバナンス体制図



三つめは、成長しようとする新たな市場に対しては、リスクを恐れず人・モノ・金・情報を積極的に戦略的に投資していくという考えを明らかにしたものです。

私たちの創業の精神は「先取の気概」でした。新中期計画に掲げた「挑戦」というキーワードは、この原点にもう一度立ち戻ろうという意志表明でもあります。



グループのシナジー効果を強化し、ブランド価値向上を図っていきます

経営戦略としては、販売・生産拠点が整ってきたアジアでの展開を一段と強化していくと同時に、CSRの推進やモノづくりの品質において、グループのシナジー効果の強化を図っていきます。その大前提となるのが、KOIZUMIというブランドを掲げる限り、会社や商品は異なっても、ガバナンスを徹底し、透明性の高い経営を実践することです。さらに品質においても、グループ統一の品質基準や環境に対する安全基準を設け、それらを評価する設備や手法も共有化するなど、社会からの信用の証であるKOIZUMIブランドの価値を高めるためにグループを挙げて取り組んでいきます。

従業員と経営トップが直接対話し、職場の課題解決やお客様満足の向上につなげていく目的で2010年度から始めた「社長と語る会」では、今まで見えにくかった現場の課題がわかるようになり、重要度の高いものから、改善に着手しているところ です。2012年度は、グループ各社での経営陣と語る会に拡大して実施する計画です。

継続的な社会貢献活動に取り組んでいきます

社会貢献活動としては、東日本大震災の支援の一環として、2011年度、家具事業の商品である学習デスク40台を被災3県の児童養護施設13施設に寄贈させていただきました。今後は、子どもたちの夢と未来を育むという家具事業の趣旨にのっとり、活動の対象を全国の施設に広げて継続していく計画です。

2012年7月

小泉産業株式会社
代表取締役社長

Handwritten signature of the Chairman of the Board of Directors.

「社長と語る会」

「社長と語る会」は、普段なかなか接する機会のない社長とグループ各社の若手社員が会社の方向性やビジョンについて語り合い、相互の理解を深めるために2010年度から始めたものです。2011年度は、9月から11月にかけて、コイズミ照明、コイズミファニテック、ハローリビング、コイズミ物流、コイズミ情報システムの各社を対象に開催エリアも拡大し、全国5会場で開催しました。



第6回(大阪)



第8回(東京)



第9回(大阪)

児童養護施設へのデスク寄贈活動



※「KOIZUMI TOPICS」で特集を組んでおりますので、35ページをご覧ください。



コイズミ照明(株)の取り組み ①

照明専門メーカーとしての環境責任を果たすため、LEDモジュールの製造を開始

コイズミ照明(株)では、環境や省エネに対する社会ニーズが加速する中、LED照明の普及拡大をめざして、グループの基幹製造会社であるコイズミライティング(株)にLEDモジュール(複合部品)を製造する新工場を開設し、生産を開始しました。生産規模の拡大とともに技術研究をいっそう推進し、照明専門メーカーとしての環境責任を果たしていきます。

「低炭素型雇用創出産業立地推進事業」とは

将来の大きな成長と雇用創出が期待できるグリーン産業の国内工場立地を支援するために、2010年度、経済産業省が公募した事業。第三者委員会での審査を経て、設備投資の最大1/2を補助するもので、エコカー、リチウムイオン電池、LEDなど全国で153事業を採択。毎年1.9兆円の需要と約9万5,000人の雇用創出を見込んでいます。

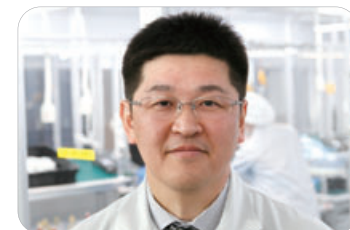
コイズミライティングのLED新工場が稼働

コイズミ照明では、高効率で長寿命な省エネ光源、LEDの研究開発を推進していますが、2008年にはLEDを搭載した照明器具「cledy(クレディ)シリーズ」を発売し、そのラインナップを毎年、拡大しています。これらLED商品のさらなる普及拡大をめざし、2011年にグループの基幹製造会社であるコイズミライティング(滋賀県東近江市)の敷地内に、LEDモジュール(複合部品)の自社生産工場を開設しました。

これまで、コイズミ照明では、照明の心臓部とも言えるLEDモジュールについては、設計は社内で行うものの、製造は外部に委託し、自社工場では最終製品の組立に特化していました。しかし、環境・省エネ対応への流れが加速する中、コスト競争力や製品開発スピードを高めることが必要と判断し、自社でLEDモジュール自体の製造ができる工場建設を2010年春ごろから構想。同年10月に、経済産業省が公募した「低炭素型雇用創出産業立地推進事業」にLEDモジュール生産事業で応募した結果、採択され、構想の実現が大きく進展しました。新工場は建坪240坪で、総工費2億5,000万円(うち同事業からの補助金3,500万円)を投じて、2011年8月に着工。同年12月に完成し、テスト操業を経て2012年3月から本格稼働しています。

従業員の声 「最も強いモデル工場」であるために

当社は、これまでグループ外から供給を受けていたLEDモジュールを自社生産することとなりました。当社にとって新しい挑戦ですが、「最も強いモデル工場」というミッションのもと、従業員全員で改革意識を高め、日々の業務に取り組んでいます。また、生産工程で得られた情報は設計工程へ細かくフィードバックし、性能の向上や品質改善のスピードアップ、レベルアップにつなげていきます。



コイズミライティング(株)
工場長
飯沼 亮介



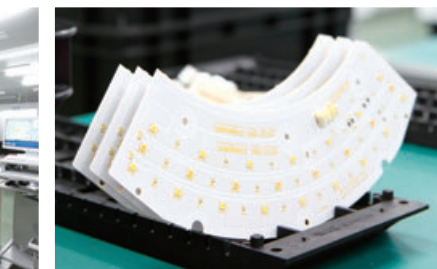
クリーンルーム内に設けられたLEDモジュール実装ライン



クリーンルーム内を清浄に保つため、完成品は無人搬送車で運搬



クリーンブース内に設けられた照明器具組立ライン



実装を完了したLEDモジュール

コイズミ照明(株)の取り組み ①

従業員の声

グループが一体化し、
最適なLED照明器具の開発へ



コイズミ照明(株)
商品開発本部 デバイス開発室

深河 憲二

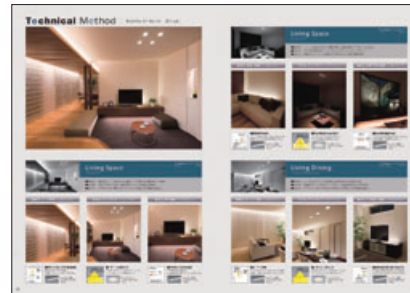
コイズミライティングで実装するLEDモジュールは、すべてコイズミ照明のデバイス開発室で設計しています。LEDモジュールを設計する上で、実装工場との連動は重要なポイントであり、常に情報を共有し、QCDの視点で最適な設計、製造をめざして取り組んでいます。また、コイズミライティングでは、LED照明器具の設計・製造も実施しており、基幹部品であるLEDモジュールから照明器具の設計・製造までを一貫してつくり込むことが可能な体制です。一体化することで各種ノウハウを蓄積、最適なLED照明器具の開発につながっていきます。



住宅用照明器具の総合カタログ「あかり専科」(左)



「家のあかりぜんぶLED」をコンセプトにした「cledy HOUSE lighting」カタログ(右)



年間100万個のLEDモジュールを生産

新工場は、LEDモジュールの実装ラインと、その後につながる照明器具組立に3ラインを設置、モジュールから完成品まで一貫して生産できる体制を構築しました。LED素子はホコリに弱いので、清浄度の非常に高いクリーンルームを設け、エアシャワーやミスト制御による温湿度調整を行うなど、徹底したクリーン化を図っています。年間100万個のモジュールを生産し、ライン照明やダウンライトの完成品の組立までを行います。

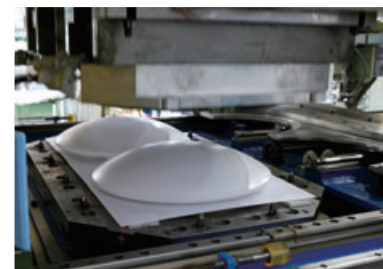
ここで生産したモジュールは、グループの青垣コイズミ照明(兵庫県丹波市)にも供給しますが、将来的にはコイズミ照明の製品に搭載するモジュールの100%を社内生産できる体制の構築をめざしています。

現在、コイズミ照明の売上において、LED照明器具の構成比は約3割ですが、今後、省エネ効果の高さから需要が急増しているLED照明へのシフトを加速。新工場の稼働によって量産機能が充実したことから、2012年度内には6割、2015年度には8～9割にまで比率を高めていく方針です。

また、新工場を含め、コイズミライティングの基幹製造工場としての生産機能をさらに高めて新たな雇用も創出し、「低炭素型雇用創出産業立地推進事業」の趣旨の実践につなげていきます。



クリーンブース内でLEDシーリングライトを組立



独自の生産技術力で圧空成型機によるセード2個取り生産を実現



高い専門性と技術力で高品質なLEDの普及へ

自社でLEDモジュールの製造機能を持つことによって、部品調達コストの削減によるコスト競争力の大幅な向上が期待できます。さらに、照明器具の性能を左右するモジュールを自社で生産することで、LED照明に関するさまざまな開発ノウハウが蓄積でき、より独自性のある製品開発ができるというメリットも生まれます。

高性能かつ低価格と、LEDに対する市場の要求はますます厳しくなっていますが、新工場の稼働をはじめとするグループとしての生産体制の強化によって、こうした市場の要求にしっかりと対応していく考えです。

コイズミ照明は、照明専門メーカーとして、空間の魅力や快適性を高める「光品質」にこだわって、新しい照明器具と空間設計技術の開発に取り組んできました。LED照明においても、省エネ・長寿命というLEDの特性を活かしながら、暮らしの質の向上につながる製品開発をめざしています。今後も、照明専門メーカーならではの高い技術力と専門力を活かして、環境負荷の低減と空間の質的向上を同時に実現する研究・開発を進め、LED照明のいっそうの普及拡大に向けて全力で取り組んでいきます。



お取引先からの声

照明に対する姿勢に、
高い信頼を置いています

泉北ホーム株式会社
インテリアコーディネート部 部長

菅田 智子 様

環境の時代、照明器具には省エネの推進手段として大きな期待が寄せられています。コイズミ照明さんの「環境に優しいだけでなく、光の品質にもこだわり、住環境にも優しいあかり」を追求されている姿勢に非常に感銘を受けています。これからもパートナーとして、照明計画の省エネ化と同時に快適空間の提案に努めていきたいと考えています。

従業員の声

“オールコイズミ”で
魅力ある製品をお届けします



青垣コイズミ照明(株)
取締役 工場長

檜根 宗則

当社は、LEDシーリングライト・ベースライト本体の板金プレス加工や、ランプセードの加工から器具の組立まで照明器具の一貫生産を行っています。コイズミライティングの新工場でLEDモジュールを生産することになり、照明器具の部品のほとんどをグループ内で生産する“オールコイズミ”の体制が完成しました。これにより「新しい光の創造」というお客様の要望に、よりスピーディかつ高い品質でお応えできるようになります。今後もさらに魅力のある製品の開発・生産に取り組んでいきますのでご期待ください。



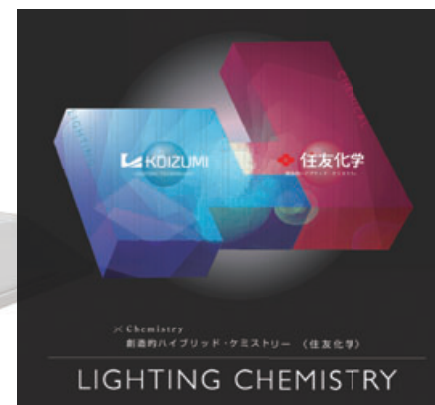
コイズミ照明(株)の取り組み ②

「LED導光板照明」を共同開発し、お客様の「環境配慮型オフィス」計画に導入

オフィスでもいっそうの省エネや節電が求められている今――。

従来から業務分野の省エネ照明の開発を進めてきたコイズミ照明(株)は、液晶ディスプレイなどに使われている導光板とLED照明を組み合わせた「LED導光板照明」の共同開発に成功。

住宅メーカー様の最先端の「環境配慮型オフィス」に導入され、実証実験が進められています。



最先端の「光制御技術」と「化学技術」が融合

オフィスや工場などの省エネやCO₂排出削減を強化するため、2010年4月から「改正省エネ法」が施行されたことにともない、事業者単位でのエネルギー管理が義務づけられ、企業における省エネ対策が急務になっています。また、2011年3月以降、日本の電力不足が大きな社会問題となっています。

こうした流れに先駆けて、コイズミ照明では、国内で照明によって消費されるエネルギーの約2割を占めるオフィスや店舗など業務分野の省エネ照明の開発を従来から推進。そのひとつが省エネ・長寿命のLEDを使った照明器具の開発です。開発にあたっては「光品質」というコンセプトを掲げ、さまざまな空間の質に応じた高度なエコ照明とより快適な生活照明の実現を追求しています。

一方、住友化学様では、液晶テレビのバックライトなどに使われている導光板の照明用途への応用を模索されており、両社の方向性が一致したことから、LED導光板照明の共同開発で提携。最先端の光制御技術と化学技術を融合させ、「光の柔らかさ」にこだわった「LED導光板照明」を開発し、2011年3月に発表しました。コイズミ照明からはオフィス向けのライトパネルとして2012年3月から販売を開始。当社のお客様である大和ハウス工業様が提案する環境配慮型オフィス「D's SMART OFFICE」の実証実験施設を兼ねた同社愛知北支店の照明設備として、2011年12月に導入されています。

従業員の声

環境ソリューション活動に邁進します

住友化学様と導光板照明器具という新しい技術に挑戦し、大和ハウス工業様の「D's SMART OFFICE」という環境提案に携わったことで、検証・実証を重ねた結果が現場で表現でき、今後も発展的に継続されていくことに大きな意義を感じています。これからも、今回の共同開発・提案を踏まえて、環境課題の解決につながる活動に努めていきます。



コイズミ照明(株)
西日本営業本部 近畿営業部
店舗施設営業所 所長

新家 隆広

環境配慮型オフィス

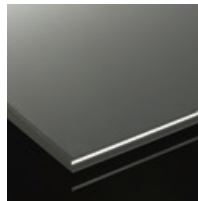
「D's SMART OFFICE」 大和ハウス工業様 愛知北支店

先進の環境技術を用いた省エネ、創エネなどによって、CO₂排出量を最大50%削減する環境配慮型オフィスとして、大和ハウス工業様が2011年7月から販売している「D's SMART OFFICE」。さらに節電効果を高めるための実証実験が、2011年12月に完成した同社愛知北支店(愛知県小牧市)でスタートしています。

コイズミ照明(株)の取り組み ②



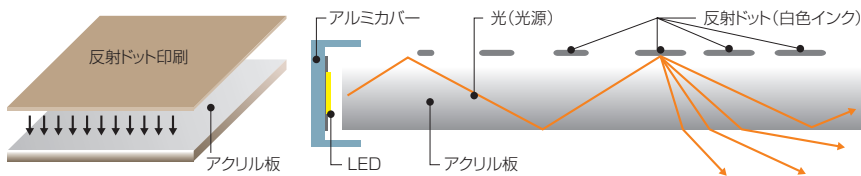
面発光するLED導光板の
均一な光は目に優しく
柔らかな光です。



パネルは、光学特性に
極めて優れたアクリル
樹脂を使用。高精度な
シルク印刷技術によっ
て光の方向性をコント
ロールし、均斉度の高
い発光面に。



従来光源と比べ、コン
パクトサイズのLED。
独自の光学設計によっ
て光が無駄なく導光板
へ入光し、薄くて高効率
な器具を実現しました。



お取引先からの声

パートナーとして
大きな信頼を寄せています



住友化学株式会社
基礎化学品研究所
主席研究員 工学博士

岩崎 克彦 様

コイズミ照明さんは、「光品質」という
キーワードにあるように、光の質をとて
も大切にされており、開発設計から商
品化への対応の速さ、商品の安全性・
信頼性、開発に対する真摯さに、パー
トナーとして大きな信頼を寄せていま
す。今後も当社の技術とコラボレー
ションいただくために、密なブレインス
トミングの機会や情報交換の場を持
たせていただきたいと思います。



目に優しく、省エネ・長寿命化を実現

開発した導光板照明とは、アクリル導光板の端面に光を当て、透明アクリル
面に印刷したドットに反射拡散させて光の方向を変換し、アクリル面全面が
発光したように見せる「エッジライト方式」というまったく新しい照明器具です。
これまでは、アクリル面全体を均一に発光させる難しさや光のロスの発生が
大きな課題でした。

しかし、住友化学様が開発した独自のドットパターン(同社特許)を持つ導光
板の側面にLEDチップを配置することで、チップから発した光を導光板全体に
均一に拡散反射させることに成功。導光板を通して、広い範囲に均質で柔らか
な光が広がる革新的な照明器具が誕生しました。直射型の機種に比べ、LED
特有のまぶしさがなく目に優しいのが特長です。省エネ面でも、従来の蛍光灯
器具(FL40W×2)と比較して、消費電力を約20%低減し、点灯時間も約
40,000時間の長寿命を実現しました。

大和ハウス工業様愛知北支店の照明設備として導入するにあたっては、導光
板の光を床方向だけでなく天井方向にも照射することで、実際の照度よりも室
内が明るく感じる照明手法を提案。大和ハウス工業様が目標としたベース照度
300ルクスがこの手法で確保できることを、コイズミ照明の大阪ショールーム
で検証し、ご確認いただきました。

従業員の声

お客様に喜んでいただける照明を提案します

住友化学様との共同開発は2010年からスタートし、
2011年のライティング・フェアでプロトタイプを
デビュー。性能・構造・価格の改良を重ね、2012年の
「LED Next Stage」には標準品として発表しました。
導光板採用の高付加価値、かつ性能・デザイン・価格
ともにバランスのとれた商品であることから、オフィス
や学校、病院から引き合い、ご注文をいただくよう
になりました。工夫の余地はまだありますが、これからも
お客様に喜んでいただける照明提案に取り組んでい
きます。



コイズミ照明(株)
店舗・施設事業部 商品企画部
ベース商品企画室長

箱崎 政直

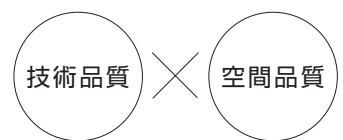
コイズミ照明(株)
商品開発本部 商品開発部
ダウン・スポット商品開発室長

西井 健



大和ハウス工業様 愛知北支店

こうひんしつ 光品質LED High Quality LED



技術品質

高品質なLEDで
美しい光を創り出す照明。

LED光源が求められる消費電力やランニングコストの低減に加え、光自体の
品質を技術力で向上させることにより、新たな光学設計のステージへと進化。
効率アップに合わせたバリエーションの拡大を展開していきます。

空間品質

効率・省エネの向上に
空間の快適性をプラス。

LED照明のある空間＝人が快適とを感じる空間へ。コイズミはLEDのベース
照明ラインナップの充実に加え、グレア対策・デザイン・環境光といった空間
視点での快適性をさらに追求していきます。



新たな環境配慮型製品として、幅広い空間用途に展開へ

大和ハウス工業様では、法人のお客様の建築物について、2030年までに「運
用時のCO₂排出量ゼロ」をめざす「スマートエコプロジェクト」をスタート。その
第一弾として、自然エネルギーや高効率空調・照明などを活用し、CO₂排出量
を同社の従来建築物に比べ最大約50%削減できる環境配慮型オフィス「D's
SMART OFFICE」が、2011年7月から商品化されています。さらに節電幅
を50%以上引き上げるため、新築移転した愛知北支店に、外光を利用する「光
ダクト」や「採光ブラインド」、また、センサーによって自動制御されるLED導光
板照明などを導入し、2011年12月から実証実験が実施されています。実験
は1年程度続けられ、すでに発売されている省エネオフィスとの比較も踏まえ
て効果を検証しながら、順次商品化される計画です。

コイズミ照明は、大和ハウス工業様向けに開発したLED導光板照明を、2012年
3月に開催された国内最大のLED照明の展示会「LED Next Stage 2012」に、
住友化学様と共同で出展。柔らかい均一面発光によって、目に優しく、明るさを効率
よく機能的に確保できる照明は、多くのご来場者から好評をいただきました。今後、
コイズミ照明では、消費電力の低減と長寿命を実現した本商品を新たな環境配慮型
製品と位置づけ、店舗・業務用途に限らず、住宅用途も視野に展開していきます。

従業員の声

常に新しい技術を用いた照明設計を心がけています

照明計画では、社会環境の変化や技術の進歩にと
もない、これまでできなかった空間を実現するこ
とが求められます。今回の大和ハウス工業様愛知北
支店の計画は、高い専門技術を持ったさまざまな
分野の方々と力を合わせて進めることで、省エネと
快適性を両立する空間をつくり上げることができま
した。お客様と目的を共有し、それを達成するた
めに、常に新しい技術を取り入れ、信頼していただ
けるような照明設計を心がけています。



コイズミ照明(株)
西日本営業本部 LCR大阪
デザイナー 照明士

猪股 寛





コイズミファニテック(株)の取り組み ①

お客様の声を聴き、製品開発に活かす コイズミファニテックのモノづくり

1966年に学習デスクの販売を開始して以来、
子どもたちの健やかな成長を支える学習環境の開発・提案に取り組んでいるコイズミファニテック(株)。
さまざまな形でお客様の「声」の収集に努め、製品開発に反映させるとともに、
独自の品質基準に沿って、永く安心して使っていただけるモノづくりに取り組んでいます。



実際の使用環境で製品へのご意見・ご要望を伺うなど、 お客様の貴重な声を製品・サービスの改善に反映

コイズミファニテックでは、大学などの研究機関とも連携しながら、子どもたちの学習環境を科学し、学習家具が子どもの視力や姿勢、学習環境に及ぼす影響まで配慮したモノづくりに取り組んでいます。例えば、LEDを採用したデスクライト「エコレディ」は、明るさだけでなく、「目への優しさ」や「学習意欲」にも影響を与える「光の色」にこだわって、開発しました。

一方、さまざまな形でお客様の声の収集に努め、お子様の健康と安全・安心を第一に考えた製品開発に反映させています。移動が簡単で座るとしっかり固定できる「コロピタキャスター」もそのひとつで、当社のすべての木製チェアに標準装備しています。

2010年からは、製品をご愛用いただいているユーザー様をメンバーとするキッズファンクラブにおいて「デスク選び応援隊」を結成し、活動を開始しました。2011年度は、春休みに学習デスクをご購入いただいたお客様のお宅を訪問し、製品を使って良かった点、改善を要する点、デスクを購入される方へのアドバイスなどを伺いました。実際の使用環境でお話を伺える貴重な機会として、活動で得た情報は製品開発に活かすとともに、WEBサイトにも掲載し、製品購入を検討中のお客様にご利用いただいています。

この他にも、「お客様相談室」にメールや電話で寄せられるご意見・ご要望も、当社の製品やサービスの改善、品質向上に反映させています。

従業員の声 ご来館の皆様に、ご満足いただくことが一番

お客様は、ご年配の方からお子様連れのファミリー、サラリーマン、外国人まで幅広い方々にお越しいただいています。また、カタログやWEBサイトをあらかじめチェックしてからお越しになる方や通りがかりの方など、さまざまなお客様が来館されます。そのため、私たちスタッフ一同は、皆様にご満足いただけるよう常に丁寧な対応を心がけています。お宅に訪問させていただいたお客様の中には、ショールームに来られ納得されてご購入された方が多くいらっしゃいます。



コイズミファニテック(株)
営業部 営業企画課 販促企画室
吉村 直子



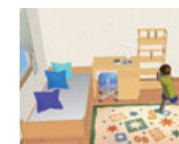
KOIZUMI FURNITURE PLAZA
コイズミファニテックプラザ



2012年3月にリニューアルオープンしたショールーム。キッズからシニアまで、新入学におすすめの学習家具、大人向けのホームオフィス家具やパーソナル家具、シニア向けの生活サポート家具を取り揃え、カタログだけではわかりにくい素材感や色、サイズなどを見て触れて体感できます。

子ども部屋 「3Dレイアウトシミュレーション」

あらかじめお借りした間取り図をもとに子ども部屋の3Dデータを入力し、当社の学習家具をシミュレーション配置して、ご来館の際に画面を見ながらご検討いただけるサービスです。





お客様からの声

シェルフ使いで、 姉弟仲良くステップアップ



キッズファンクラブメンバー
大阪市 N様

3年生になるお姉さんの時は引越し族なので、コンパクトなデスクと思っていましたが、やはり大きくなると机は広いほうが良いと考え、100cm幅のステップアップデスクにしました。良かった点は「ライト」。またステップアップ対応なので、組み替えが簡単にでき、この3年間で3パターンに組み替えました。シェルフを仕切りに使用し、ほどよい個室感のある2人部屋のレイアウトにしています。



「ロングライフ設計」思想に基づき、お子様の成長に合わせた使い方と資源の有効活用を同時に追求

コイズミファニテックでは、子どもたちの健やかな成長と未来を見据え、「healthy(健康第一)」「safety relief(安全・安心)」「eco energy(優れた省エネ性能)」を核とする品質方針のもと、学習環境と地球環境に配慮したモノづくりをめざしています。

その設計思想の核となっているのが、「ロングライフ設計」。素材とデザインにこだわり、お子様が成長し、大人になってからも使っていただけるよう、十分な耐久性と長く使えるデザイン性を追求しています。

学習デスクには、耐久性に優れるナラやタモの天然木や、天然木と同等の質感を再現した代替素材「エコウッディ®」などを使用し、長期使用に耐えうる品質と質感を確保しています。また、お子様の成長や学習環境の変化に合わせて書棚とデスクの組み合わせを自由に換えられる「スタイル可変型デスク」を業界に先駆けて開発し、「ステップアップデスク」として販売。小学校入学時から中学・高校生とお子様の成長の各段階に応じて、レイアウトがきめ細かく変更できる点が好評をいただいています。

製品アセスメントにおいても、長く使える機能やデザインが盛り込まれているかどうかを評価項目に盛り込むなど、ロングライフの視点から評価しています。製品を長く使っていただくことは、資源の有効活用にもつながるため、今後も「ロングライフ」設計思想に基づく、製品開発に取り組んでいきます。

従業員の声

常にユーザーメリットのある製品開発をめざします

当社は、エンドユーザー様に永い間ご使用いただけるよう、**耐久性・デザイン性**を追求した製品開発に取り組んでいます。販売店様やエンドユーザー様には、商品を買っていただく際に喜んでいただき、また、エンドユーザー様にはご使用いただいてからも、さらに喜んでいただけるような製品をめざし、常にユーザーメリットのある製品を開発していくことが、私たちの使命であると考えています。



コイズミファニテック(株)
商品部 開発課 商品開発室
鍛治 勝



new concept

5つの

家庭内学習環境をより快適に！
「MOTTAINAI」、
成長に合わせて進化！

ステップアップデスクLは、組み合わせ方によって5つのスタイルに変更できます。また、収納性、天板の広さ、耐震性にすぐれた実用性NO.1のコイズミ独自のスタイルで使用できます。

- 1 型カウンタースタイル
- 2 OWスタイル
- 3 サイズ天板
- 4 ONG LIFE
- 5 オールLED LIGHT



電球色光源のみ
「休憩モード」



電球色+昼白色
「勉強モード」



昼白色光源のみ
「計算モード」

蛍光灯にLEDサブランプを組み合わせたカクテルツインライト「エコレディ」は、光の色の心理的効果を科学的に検証して開発。「光の色」をコントロールできる「光の質」を追求したライトです。



独自の製品規格に沿って、材料調達や生産の上流から、品質と安全性確保を徹底

製品開発にあたっては、日本工業規格(JIS)をベースにした当社独自の製品規格「KIS(Koizumi Industrial Standard)」で定めた基準に沿って、強度や環境性能、安全性などについての試験を繰り返し実施し、お客様に安心してお使いいただける品質と安全性の確保に努めています。また、形状についても、お子様の正しい姿勢を考え、椅子であれば、座面や背もたれの高さ、角度位置などを検証し、実際に使用する場合の適正な形状を追求しています。

「お子様の健康を第一」に考える品質方針から、従来からシックハウス対策にも注力。シックハウス症候群の原因となるトルエンやキシレンなどのVOC(揮発性有機化合物)を含まない塗料・接着剤を採用するとともに、ホルムアルデヒドについてもWHO(世界保健機関)の基準値以下の管理を徹底しています。

製品の生産を委託している工場に対しては、原材料調査を実施するとともに、森林伐採地を明確にする「伐採証明書」の提出を義務づけ、製品アセスメントの評価項目にも盛り込んでいます。さらに、製品出荷時や当社での受け入れ時にも、有害化学物質の有無などの製品検査を徹底しています。

お子様に「健やかに育ってほしい」という想いを込めて購入される学習家具——。コイズミファニテックは学習家具のリーディングカンパニーとして、これからもお子様の健やかな成長を願うお客様の期待に応え、子どもたちの健康と未来のために、そして地球環境にも優しい学習家具づくりを追求していきます。

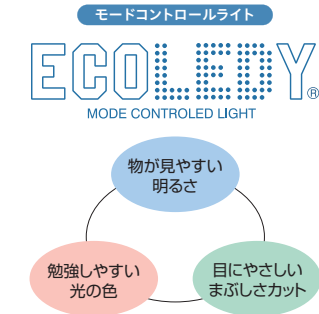
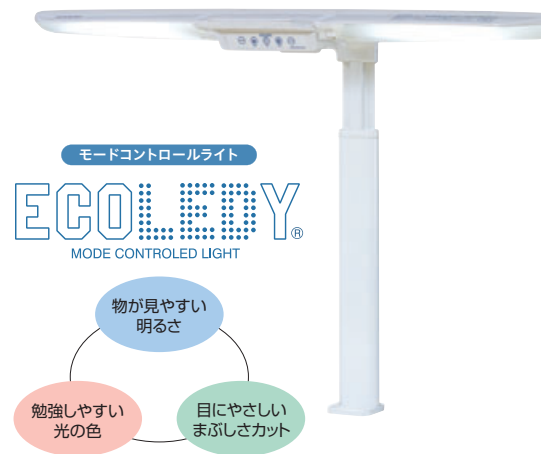
従業員の声

お客様に喜んでいただける製品品質をめざします

品質管理室では、「お客様に喜んでいただける製品品質」を目標に、出張ベースでの海外工場への品質指導(工程内・出荷検査)および国内での受入検査を実施してきました。2012年度は、主要生産国である中国に品質管理責任者を常駐させ、より良い品質の製品をご提供できるよう生産現場内での品質のつくり込みを実施、品質向上をめざす活動への取り組みを開始します。



コイズミファニテック(株)
品質保証課 品質管理室
天満 啓司



お客様からの声

長く使えるので選びました



キッズファンクラブメンバー
西宮市 A様

3畳という限られたスペースにデスクとベッドを置きたかったため、ベッドの下にデスクが置けるハイベッド「キッズコンボ」にしました。今はひとつの部屋で使っていますが、将来は、デスク、ベッド、シェルフを寝室と勉強部屋に分けて使うつもりです。それぞれ単体でも使え、シンプルな色目なので、長く使えるのがうれしいですね。



STYLISH Series
DecoPri

女の子の夢のデスク「デコプリ」。ピカピカの天板にキラキラのデコレーションができ、ママと一緒に自分だけのデコレーションをしたおしゃれなデスクで勉強ができます。



コイズミファニテック(株)の取り組み ②

元気なシニアの生活空間をサポートするソリューション事業を展開

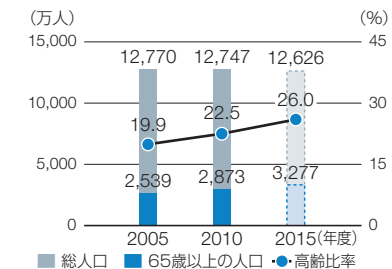
コイズミファニテック(株)は、子どもたちのための快適な学習空間の創造に加え、社会の高齢化が進む中、高齢者の快適な暮らしを支える「ウェルホーム&メディカル事業」を展開。健康・安全・環境を第一に、元気なシニア世代の生活空間をサポートするソリューションを提案しています。



超高齢社会の日本

厚生労働省によると、2011年の65歳以上の人口構成比はすでに23%に。また、総務省の推計では、2015年には4人に1人以上を超え、今後15年間、高齢者は超スピードで増加し、2045年まで増え続けると見られています。

日本の将来推計人口



さまざまな高齢者の方を選んでいただきやすいよう、電動ベッドのラインナップを拡充

日本社会の高齢化は急速に進んでおり、厚生労働省によると2011年現在の65歳以上の人口は、4人に1人に迫る23%に上っています。コイズミファニテックでは、すでに超高齢社会を迎えた日本で、シニア世代の快適な暮らしを支援していくことも当社の大切な役割であると考え、高齢者の充実したセカンドライフを提案する「ウェルホーム&メディカル事業」を展開しています。高齢者の自立を支援する電動ベッドの製造・販売や各種介護用品のレンタルなど、元気な方から介護が必要な方まで、幅広い高齢者のニーズをとらえた製品の開発・提供に取り組んでいます。

電動ベッドとしては、リクライニング機能を持ち、寝起きの動作のしやすさを考慮した「自立支援ベッド」を2005年に自社ブランドとして開発し、家具店や福祉・介護機器の販売店などを通じて販売してきました。

しかし、ひとくちに高齢者といっても、まだまだ元気な方や介護が必要な方など、健康状態や身体機能によって電動ベッドに求めるニーズはさまざまです。そこで、2012年1月からは、インテリア性を高めた元気なシニア世代の方向けの「リクライニングベッド」と、上下昇降機能を持たせた介護が必要な方向けの「在宅ケアベッド」も商品ラインナップに加え、ニーズに合わせてお選びいただけるようにしました。

従業員の声 「お客様第一」を基本に提案し続けます

いよいよ本格的な超高齢社会となり、人々の生活環境も大きく変化してきています。当社は、人々の豊かで快適な暮らしのために、グループ全体で長年培ってきたノウハウを最大限に発揮し、新たな価値を創造するとともに、お客様第一を基本に提案し続けます。すべてのメンバーが、お客様から愛され、信頼されるブランドメーカーをめざし、日々邁進していきます。



コイズミファニテック(株)
ウェルホーム&メディカル事業部 取締役 事業部長
宮本 善夫

お取引先からの声

幅広い価格帯の製品づくりを期待します



株式会社インテルナウエダ
代表取締役社長

上田 浩之 様

十数年前からシニア向け売り場を設置し、コイズミブランドの立ち上げにあたっては、自立支援ベッドの開発に協力させていただきました。元気なシニアや要支援者が望む電動ベッドは、ご家庭で使用するだけに、インテリア性があり、見た目もデラックスなもの。そうしたお客様の声を捉え、幅広い価格帯の製品づくりを今後も期待します。



インテルナウエダ

京都市左京区白川通りにある「インテルナウエダ」様は、経済産業省認可のニックチェーン(協同組合ニッポンインテリアチェーン)に加盟。お客様に喜んでいただけるサービスの提供を心がける「暮らしを楽しむ家具とインテリアの店」として、地域の皆様に親しまれているお店です。



アクティブシニア向け、安全性と先進の機能、インテリア性を兼ね備えた電動ベッドの提案に注力

高齢者の中でも圧倒的多数を占めるのが、元気なシニアたち。そんなアクティブシニアの増加にともなって、家具店では電動ベッドの売上比率が増えています。コイズミファニテックでは、元気なシニアの方に、電動ベッドをはじめ当社の生活サポート家具をもっと知っていただく取り組みを始めています。

購入を検討されているお客様に、健康維持や将来に備えた最適な電動ベッドを選んでいただきやすいよう、当社の電動ベッドを種類別にわかりやすく展示する「生活サポートコーナー」の設置を家具店に提案しているのも、そのひとつ。2012年からは当社のショールームにも、電動ベッドを中心に高齢者向けのパーソナルチェアや家具などを展示するコーナーを設け、製品選びのための適切なアドバイスに努めています。

当社の電動ベッドは、学習家具と同様に、設計段階から自主ガイドラインを設け、独自の製品規格「KIS規格」に基づく安全性試験を実施するなど、使う方の安心と安全に徹底的にこだわっています。2010年からはJASPA(日本福祉用具・生活支援用具協会)にも加入し、3年間保証も実施。また、背部が上がりきった時に脚部がフラットになる状態を1モーターで実現する「フットフラット機能」や、起き上がりの際に腹部の圧迫を軽減する「バックスライド機能」®など、身体のスムーズな動きをサポートする数々の先進機能「らくアップモーション」を備えています。また、インテリア性も備え、リーズナブルな価格であることも特長です。

従業員の声

世界中で愛される製品を開発していきます

ビートルズを聴いて育った「団塊世代」が定年を迎え、今までとは違ったニーズが発生しているため、新しい時代の変化を的確にキャッチしたモノづくりをめざしています。2012年5月、新製品の電動ベッドを「上海福祉機器展」に出展し、高い評価をいただきました。日本だけでなく、世界中で愛される「コイズミらしい」製品を開発していきます。



コイズミファニテック(株)
WHM事業部 商品課 開発室

篠原 千春

エイジング電動ベッド 先進の機能「らくアップモーション」®



「フットフラット」機能

1モーター／昇降2モーターのみ

新機能では1モーターでも背部が上がりきった状態時には脚部がフラットな状態になるので、ベッドから移動がより快適になりました。

■ 快適な背上げ・脚上げのリクライニング



安心 安心の「3年間保証」



日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA) 会員



●(社)日本家具産業振興会

SAFU制度は、家具の欠陥により事故が発生し、法律上の賠償責任が生じた場合に賠償するというものであり、本制度に加入している企業は「SAFUマーク」(SAFU=Safety Furnitureの略)を表示しています。



コイズミファニチャープラザで、シニア向けの電動ベッド、マットレスやチェアと、介護施設用の生活サポート家具を展示。



高齢者が安心できる住まいづくりに、さまざまなアイデアで貢献

生活サポート家具は、家具店などでおお客様にご購入いただくだけでなく、ケアプランセンター(居宅介護支援事業所)や介護・医療機器、オフィス機器の販売会社など、販売ルートもさまざまに広がってきています。また、介護保険制度を利用して、電動ベッドや車椅子のレンタルを希望されるお客様に対しては、ケアプランセンターを通じて対応するレンタル卸事業も実施し、介護を必要とされる高齢者のニーズに応えるべく、きめ細かなサービスの提供に取り組んでいます。

一方、介護施設に向けて、イージーオーダー家具「グランテージ」シリーズを販売。チェストやキャビネットなどの収納家具やデスクはサイズのバリエーションを揃え、居室のスペースや使い勝手に応じて自由な組み合わせが可能で、さらに幅1cm単位でのオーダーも承るなど、無駄なスペースのない居住空間づくりを実現しています。また、車椅子の使用にも対応できる高さ調節機能付きのダイニングテーブルや、立ち上がりをサポートするグリップ付き肘掛け椅子など、徹底した利用者の視点からの発想で製品をラインナップ。介護施設の居住空間をより使いやすく、安全で快適な暮らしをサポートしています。

また、当社は、2011年、日本同様に高齢化が進む中国においても、電動ベッドの販売を中心に当事業の推進をスタートしました。これは、当社が学習デスクで築いた販売地盤を活用して取り組むものです。

今後、日本、中国ともにアクティブシニアが増加し、そのライフスタイルが多様化すると見込まれるだけに、当社は、高齢者の住まいや暮らしをサポートするソリューション事業を積極的に展開していきます。

従業員の声

超高齢社会に貢献する製品を提供していきます



コイズミファニテック(株)
WHM事業部 営業課

池田 弘文

当社は高齢者向け製品の販売、レンタル事業をスタートしてから13年目を迎え、自立支援ベッド、リクライニングチェア、施設用家具など、ご利用者のQOL(生活の質)の向上を第一に考えた事業を展開してきました。2012年4月に、新製品として上下垂直昇降機能付の在宅ケアベッドを発売し、多くの方にご利用いただいています。今後も超高齢社会に貢献する製品の開発・販売に取り組んでいきます。

お取引先からの声

利用者のニーズに応じたきめ細やかなサービスを期待します



ケアプランセンター リビングアイ
店長 主任介護支援専門員

西川 慎志 様

本業は家具店ですが、2000年にケアプランセンターを設立し、福祉用具のレンタルを中心に介護施設への家具販売などを行っています。利用者である要介護者の方から要望を聞き、コイズミさんの福祉用具レンタルカタログづくりにも協力しています。今後も利用者のニーズに応じたきめ細かなサービスを期待します。



リビングアイ

大阪市内で高齢者指数(人口に対する65歳以上が占める割合)が比較的高い東住吉区で、福祉用具対応事業を行い、ケアマネジャー7名を擁するケアプランセンター。介護用品から住宅改修、インテリア・家具まで、快適介護を提供する住まいの総合コンサルタントです。



(株)ハローリビングの取り組み

オフィスや店舗の 照明・空調設備の省エネを提案

(株)ハローリビングは、住宅設備の提案・販売・施工を通じてお客様にトータルなサービスを提供しています。新たにグループ企業などと協働し、オフィスや店舗に対する省エネの提案事業を開始しました。



住宅設備で培った節電・省エネノウハウを、 業務分野にも展開

ハローリビングは、照明器具をはじめとする建物設備や内装製品などの提案・販売・施工までトータルなサービスを提供しています。これまでは住宅会社様やマンション会社様、工務店様を通じて、住宅設備を中心に事業展開してきましたが、さまざまな分野で節電・省エネ意識が高まる中、2011年度には、新たな取り組みとして、オフィスや店舗への節電・省エネ対策をご提案する「ESCO (Energy Service Company) 事業」をスタートさせました。

この事業では、LED照明の開発を進めるコイズミ照明や空調機器メーカー様との協働で、オフィスや店舗の省エネ診断や改修計画の立案・設計・施工管理などのサービスを提供しています。お客様からご相談いただいた建物の照明や空調設備をメーカー様とともに詳細に省エネ診断し、LED照明や省エネエアコンなどへの置き換え計画の立案から施工まで、責任を持って対応しています。

従業員の声 グループシナジーを活かした事業を展開します

東日本大震災以降、特にオフィスや店舗のお客様の節電・省エネへの意識は非常に高くなったと感じており、今後も需要がさらに活発になると予測しています。当社はグループ内でLED照明を開発製造しているため、その強みを活かして、これからも積極的に事業展開を図っていきます。また、2012年度からはコイズミファニテックの自立支援ベッドの販売も計画。グループシナジーが発揮できる体制を整えていこうと考えています。



(株)ハローリビング
営業統括部 取締役部長
森 理則

お取引先からの声

「あかりを通じた社会貢献」
をとともにできる喜び



扶桑電通株式会社
執行役員 ファシリティ事業部長
大西 順司 様

LED照明器具などの設備工事を通じて省エネ社会実現へのお手伝いをしている当事業部がハローリビングさんとお付き合いができたのは、最近のことです。「あかりを通じて社会に貢献する」— その強い姿勢から生み出される環境に優しい製品の数々は、工事を行う私どもにとっても優しい製品でした。お客様に喜んでいただき、環境貢献も同時にできる。そんな活動をハローリビングさんとともにできる喜びを実感しています。



コイズミ情報システム(株)の取り組み

BCP対策として、 基幹システムの安全対策の強化に着手

コイズミ情報システム(株)は、災害対策も視野に、グループの基幹システムの再構築に取り組んでいます。取り組みで得たノウハウを活かして、お客様により付加価値の高いサービスを提案していきます。



基幹システムをダウンサイジングし、 従来比1/10の省スペースと省電力を実現

コイズミ情報システムは、当社グループをはじめ、さまざまな企業の情報システム構築・設計・開発・運用・保守サービスを提供しています。受発注業務や在庫管理、労務管理、物流など、企業の基幹業務のIT化が急速に進む中、システムトラブルの発生は企業活動に多大な影響を及ぼします。全国で事業展開する当社グループにとっても、情報システムの安全強化は必要不可欠な命題でした。

そこで、当社はこの命題に取り組むため、2009年から自然災害への対応も含めたBCP※の具体化を検討してきました。検討の結果、2012年初めから、現状設備の1/10のスペースと2割弱の電力で同等以上の処理能力を有するコンピューター設備への移行と、地震対策・自家発電機能を有するデータセンターへの移設を柱とした安定・安全強化策の実現に着手。基幹システムは2012年中に全システムの移設完了をめざしています。

今回の移設によるシステムの再構築は、グループ各社の特性を活かした営業展開をするための素地づくりと位置づけています。また、培ったBCPノウハウを、今後はグループ外のお客様への提案にも活かしていきたいと考えています。

※BCP(Business continuity planning): 事業継続計画。

従業員の声 グループの根幹を支え続ける使命があります

私たちの使命は、全国の当社グループで日々稼働している約2,000台のパソコンのシステムトラブルを未然に防ぐこと。基幹システムの移設によって、自然災害にも動じない安全強化策の具現化をめざしています。コスト問題にも頭を悩ませましたが、ダウンサイジングによる移設を無事に開始できました。今後はグループ外にも積極的に提案していきます。



コイズミ情報システム(株)
開発・管理統括部 取締役統括部長
石田 美智也

お取引先からの声

大きなメリットを生み出した
当社ニーズに対応したご提案



ユアサ電池サービス株式会社
常務取締役 管理部長
西岡 俊行 様

当社がコイズミ情報システムさんとお付き合いさせていただいて10年近くになります。当社は2年前からWEB取引の拡大、ハード機器の老朽化対策、投資額の抑制をポイントに基幹システム再構築の検討を開始。これからの時代はクラウド型の環境が望ましいと思い、コイズミ情報システムさんに相談したところ、当社の規模に応じた全面運用サポートを含むシステム提案をいただき、当社システムの全面委託を決定しました。クラウド化によって運用管理面および資産管理面での負担が軽減でき、大きなメリットになっています。また、東日本震災時に痛感したBCPの観点からもコイズミ情報システムさんへ委託して良かったと思います。

春日部営業所を24時間運用にし、 最適な物流サービスを提案

コイズミ物流(株)は、当社グループの物流機能全般を担う一方、その経験とノウハウを活かし、グループ外のお客様にも最適な物流サービスを提供しています。2011年5月には東日本の物流業務を担っていた2拠点を統合し、24時間運用としたことで、グループ内外に対する物流コストの低減が実現するなど、さまざまな統合効果が生まれています。

お取引先からの声

東北各地に、毎日安全に荷物を
お届けするパートナーとして



二葉運送株式会社
代表取締役社長

細川 忠彦 様

コイズミ物流さんの拠点統合にともない、当社が東北6県の配送を担う協力会社を選ばれたのは、家電製品の共同配送を東北全域で展開していることが評価されたものと考えています。当社のドライバー教育にも取り組んでいただけており、パートナーとして良好な関係を築き、業務を進めたいと思っています。



作業の合理化と物流コストの削減を実現

コイズミ物流の強みは、全国規模での「小口多頻度配送」ネットワーク。全国に6拠点をもち、沖縄を除くすべての都道府県で「翌日午前中配送」を実現しています。グループ内では、照明器具や学習家具、さらに、同じコイズミブランドを掲げる小泉成器*の家電製品の物流で培ってきた「照明」「家具」「家電」の流通チャネルを中心に、幅広い業界から輸配送業務や保管業務を受託しています。

グループ内外にいつでも最適な物流サービスを提供するには、物流拠点の集約が必要との考えから、東日本の配送を担っていた、いずれも埼玉県草加営業所と春日部営業所を春日部1拠点に統合することを2010年に決定。2011年5月に統合が実現し、同時に24時間運用による営業を開始しました。

統合の最大のメリットは、積み込み作業の合理化と物流コストの削減です。従来、草加と春日部では出荷時間の違う商品を扱っていたため、積み込みが煩雑でしたが、1拠点に集約したことで作業時間とエネルギーのロスが改善。事務処理業務も削減でき、トータルで3%のコスト削減効果が生まれています。また、西日本の物流拠点から深夜に届いた商品も、24時間運用によって、いち早く東日本のお客様に届けられるようになりました。さらに、社内業務を3交代制にしたことで従業員の長時間労働がなくなり、労働環境の改善にもつながっています。

*1989年4月、小泉産業の商事事業部門が、小泉成器として分離・独立。



グループ外の集荷範囲が一挙に広がり、 共同配送のメリットがさらに提案しやすく

24時間運用によって、外部のお客様をいっそう獲得しやすい環境も整いました。従来は春日部から50km圏内の集荷が限界でしたが、積み込みを未明にずらせるようになり、その範囲が一挙に660km圏に広がったためです。グループ外物流は、同じ送り先に自社と他社の商品を同時に配送することで双方に運送料の低減メリットが生まれるため、グループ内と同じ分野の商品の扱いに力を入れています。さらに広域のお客様に共同配送のメリットをご提案し、外販比率を高めていく考えです。

また、配送は3社の運送協力会社様に委託していますが、拠点統合によって、各社の業務合理化にも貢献し、喜ばれています。

今後は、この拠点統合と24時間運用の効果を最大限に活かし、グループ内外に対し、さらなるコスト削減やサービス価値の向上に努めていきます。

従業員の声 よりいっそうお客様のお役に立てる営業所へ

草加と春日部の2営業所が統合され、24時間体制となったことで、これまではできなかったことが可能になりました。コイズミ照明の東大阪からの荷物や、外販先様の夜間持ち込み商品分を翌日に配送できるようになり、荷主様の納期短縮に貢献できたと感じています。統合から1年が過ぎ、グループのさらなる発展に向け、協力会社さんとともに協力し、お客様に最適な物流サービスを提供していきます。



コイズミ物流(株) 春日部営業所 係長

山下 都夫





小泉産業(株)の取り組み

グループ全体で、 働きがいのある会社をめざします

小泉産業株式会社グループがめざす 働きがいのある会社づくりとは

当社グループは、経営理念に掲げる「新しい着眼、独自の発想、新たな価値創造の実現」をめざし、会社を構成する従業員にとって「働きがい」のある会社づくりに取り組んでいます。会社・上司に対する「信頼」、仲間との「連帯感」、仕事に対する「誇り」を持ち、個々人が企業の社会的使命と自分の目標や欲求を一致させながら、自己実現が果たせる会社——。そういう「働きがい」のある会社づくりを通じ、コイズミブランドの価値の向上をめざしています。

人格の育成向上を実践するコイズミアカデミー

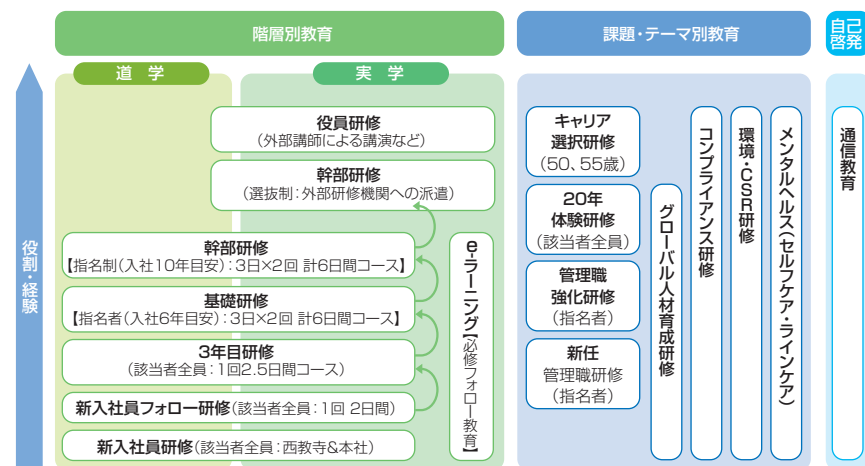
従業員の働きがい創出をサポートするため人材育成プログラムとして、2011年からコイズミアカデミーを本格的にスタートさせました。

「人格の育成向上」という社是に基づいて、従来から従業員の人間力を高める「道学」を実践してきましたが、アカデミーは、この道学と、業務に役立つスキルを磨く「実学」を2本柱にした階層別教育と、「キャリア選択研修」「グローバル人材教育」といった課題・テーマ別の教育から成り立っています。

どんなに時代が変わろうと、社会に役立つ存在となるために不可欠な人間の原理・原則を学ぶ「道学」を土台に、各自の業務や役割に応じたスキルを身につけ、さらには時代ごとに求められる新しいテーマを学ぶ中で、個々の従業員が自分のやりたいことを明確にし、「働きがい」の核である自発的な意欲を醸成することが、アカデミーの狙いです。

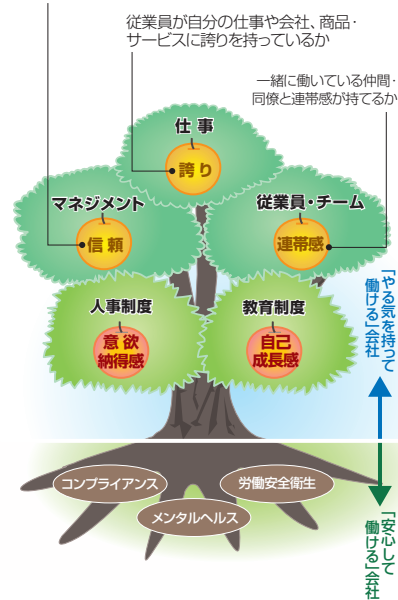


コイズミアカデミープログラム



“働きがい”の木

【信用】 従業員が経営陣を信用しているか
【尊敬】 経営陣が従業員を大切な「人」として尊敬しているか
【公正】 適切な評価や処遇がされているか



従業員の声

アカデミーで「学び」、 現場で「育む」



小泉産業(株)
グループ経営統括部 人事部 室長
甲斐 和弘

甲斐 和弘

当たり前のことが当たり前に見える、そして時代の変化に敏感に読みとり必要とされる能力に磨きをかける。アカデミーは、その両輪からなる気づきと学びの場です。しかし、気づき、学んだ事を身につけ、「知っている」から「できる」人材になるためには各職場での「育み」が絶対的な必要条件となります。よりいっそう、現場との連携を大切に、アカデミーの充実を図っていきます。

従業員の「こころの健康」のために

「働きがい」のある会社であるためには、すべての従業員が心身の健康を保ち、安心感を持って仕事に取り組める環境の整備が基本要件です。そうした職場環境を実現するため、従業員のメンタルヘルスケアの充実にも努めています。

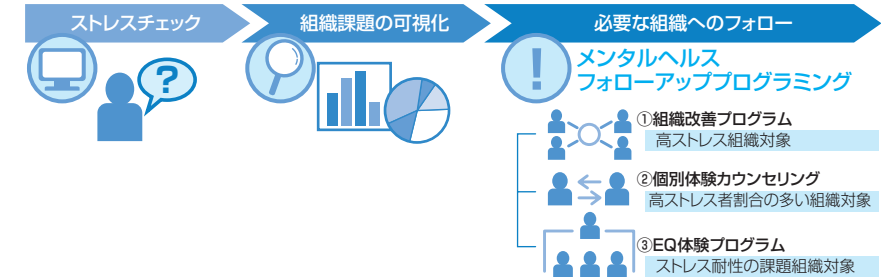
e-ラーニングを利用したメンタルヘルスの基礎知識の習得と気づきを促すセルフケアを2007年から継続する一方、2009年からは各組織単位でのメンタル状況を「ストレスチェック」で可視化し、課題のある組織に対し必要なフォロー施策を実施するラインケアを実施しています。

ラインケア3年目の2011年は、ストレスチェック後のフォロー施策として、前年度実施の「組織改善プログラム」に加え、能動的な取り組みとして高ストレス者の多い組織に対し、所属する全従業員一人ひとりにカウンセリングを実施していく「個別体験カウンセリングプログラム」と、ストレス耐性に課題のある組織に対し、感情のコントロール方法を学び、コミュニケーションの円滑化や良好な人間関係の実現をめざす「EQ体験プログラム」の2つを新たに実施しました。

フォロー実施後の参加者に対してのアンケート結果では、3つの施策の平均で「効果あり」の回答が53%となりました。特にストレス耐性にアプローチし、メンタルタフネス領域に取り組んだ「EQ体験プログラム」では「効果あり」の回答が66%となり、フォロー施策としての有効性が確認できました。

2012年は、それらアンケート分析結果を踏まえ、さらに効果的なラインケアを実施をする予定です。

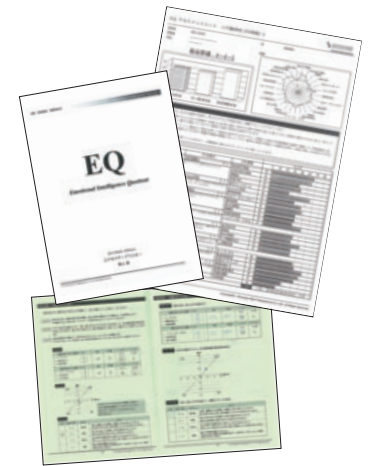
ラインケア(ストレスチェック～フォロー)



従業員の「からだの健康」のために

従業員の「からだの健康」を維持・促進するために、グループ全従業員に対し、産業医と連携した健康に関する情報誌「産業医便り」を毎月配信するなど、健康に対する意識啓発に継続的に取り組んでいます。その結果、国内グループ6社の健康診断受診率は、2011年度まで5年連続でほぼ100%を実現しています。

また、自身の健康管理に関心を持ってもらえる機会の充実を図るため、2012年度からは、従来からの人間ドッグ・専門ドッグの援助金に加え、生活習慣病予防検診に付加できるオプション検査の費用補助を実施します。従来は自己負担でしたがこの補助によって、さらに詳しい検査を受診できる環境が整いました。



EQ体験プログラム「アセスメントシート」

ステークホルダーからの声 EQでメンタル強化、 EQで働きがいを実感



EQグローバルアライアンス
エグゼクティブマスター
高山 直様

高山 直様

EQのメンタルヘルスへの応用は最近始まったばかりの新しい取り組みです。EQは「感情能力」といわれ、上手に使う事で、自分や相手の気持ちを感じ、前向きな気持ちをつくったり、気持ちを切り換えたり、カッとなったときには冷静になるよう感情をコントロールすることができます。「働きがい」や「健全な感じ方」にもEQが大きく影響していると考えられます。

EQ (Emotional Intelligence Quotient) とは

「情動が私たちの行動に重大な影響を与えている。情動をうまく管理し、利用することは、知能である。」という概念。1990年に、エール大学のピーター・サロベイ博士とニューハンプシャー大学のジョン・メイヤー博士が論文「Emotional Intelligence」で発表したもの。



グループ全体で 社会的価値の向上をめざします

CSRマネジメント

グループ全体を包括するCSRマネジメント体制を構築し、 4つの要素を柱にしてCSRを推進

当社グループでは、創業の源流にある近江商人の“三方よし”の考え方のもとに、300年の歴史を通して、時代とともに変化する企業の社会的責任(CSR)を果たすべく努めてきました。

2005年度には、CSRに対する社会的関心の高まりを踏まえて、小泉産業(株)にCSR推進部門を設置し、翌2006年度からスタートしたグループ経営体制のなかで、グループ全体のCSRを統合的に推進する体制を構築。グループ理念のもとで、「コンプライアンス&リスクマネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」「コーポレートブランドマネジメント」の4つを柱として、グループ全体でCSRを推進しています。

2010年度には、グループ各社が経営のなかで、それぞれのCSR課題に実践的に取り組むことをめざして、CSR推進部門に替えて小泉産業(株)の経営推進部を事務局として、各戦略子会社の現場中心のCSR活動を支援していく体制としました。同時に、CSR活動の原点である従業員一人ひとりの働きがいと各社の有機的活動によるブランド価値向上のビジョンをグループの経営方針としてまとめ、2011年度の各社経営方針に反映させました。

また、従来、各社それぞれに取り組んでいた社会貢献活動については、2009年度に「社会貢献指針」を制定し、グループ共通のテーマに基づく社会貢献活動に取り組んでいます。

環境マネジメント

ISOを主体に、持続可能な社会形成に向けた 環境配慮経営を推進

CSRマネジメントを構成するうち「環境マネジメント」については、国際規格である「ISO14001」に基づく活動を推進しています。2002年に本社と東大阪事業所で認証を取得して以来、国内グループの主要拠点で認証の取得を進めてきました。

2011年度における認証取得状況は、照明器具製造2工場を含むグループ9社、11事業所で、国内グループ全体に占める認証取得事業所の従業員数の割合は7割になりました。グループ各社が事業に関わる環境配慮活動を行い、環境マネジメントを有効なかたちで経営に活かすべく取り組んでいます。

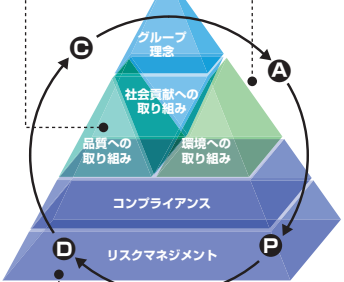
また、2008年にはグループ各社共通の「環境管理規定」を制定し、ISO14001の認証取得事業所以外でも環境保全活動に取り組むなど、グループ全体で環境負荷低減による持続可能な社会形成に向けた経営に取り組んでいます。

CSRマネジメントの構造

コーポレートブランドマネジメント
“グループ理念体系”に基づいて、コーポレートブランド価値の最大化を図り、社会に愛され信頼される企業をめざす

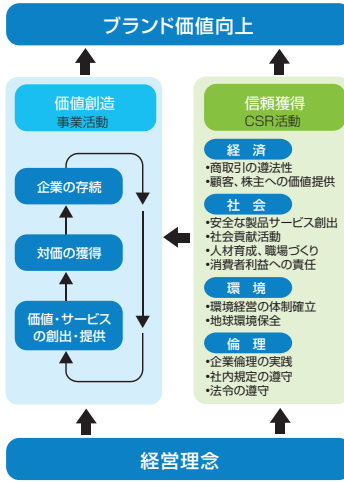
品質マネジメント
ISO9001を基本に製品品質はもちろんのこと経営品質の向上に取り組む

環境マネジメント
ISO14001を基本にサプライチェーンを含めた環境経営の推進に取り組む



コンプライアンス&リスクマネジメント
コンプライアンスとリスク管理という視点から管理項目を洗い出し、社内ルールを整備・維持・管理する

社会から信頼される企業になるために



工場での現場審査
(コイズミライティング)



プロセス
確認審査
(東京サイト)

コンプライアンス

意識向上の教育と啓蒙活動を継続的に実施

当社グループの各社は、コンプライアンスを重視した経営を行うことを重要課題としています。コンプライアンス企業であるためには、従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を持っていることは当然として、その意識が行動に現れていることが大切です。

当社グループはこれまで「コンプライアンスハンドブック」や「コンプライアンスノート」を発行し、CSRや企業倫理、労働時間、ハラスメント、情報管理など、コンプライアンスの重要課題について従業員の意識啓発を図ってきましたが、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識をより高めていくためには、繰り返し意識の啓発を図ることが必要です。そこで、2011年度はこれまで行ってきたコンプライアンス教育の総復習の年と位置づけ、グループ全社を対象に社内イントラネットを活用して、それぞれの重要テーマについての研修を実施しました。

また、毎年10月の「コイズミ倫理月間」には、グループ全従業員で「グループ倫理行動ガイドライン」を唱和し、企業倫理への意識を高めています。

今後は、従業員のコンプライアンス意識が行動へと結びつくよう、コンプライアンス研修や「コイズミ倫理月間」を充実させていきます。



コンプライアンス
教材ツール



コイズミ倫理月間ポスター

リスクマネジメント

グループ各社の事業に応じたリスク課題への対策を推進

当社グループでは、グループ経営に移行した2006年から、リスクマネジメントへの取り組みを開始し、グループ各社のリスク項目の洗い出しから、継続したリスク対応施策の立案、実施を行っています。グループ各社のリスク課題のうち、全社に共通のリスクとして、労働者派遣法の違反リスクが発見され、2011年度はこのリスク課題を調査し、問題がないことを確認しました。

また、リスクマネジメントは、表面には出てこないリスクを明らかにすることに意味があるので、その時々々の課題に意識を向けるだけでなく、広い視野から、洗い出しが行われているかを確認することも重要なテーマです。

2011年度は、製品・サービス・取引などの「事業活動」、人事・労務・財務・情報管理などの「組織基盤活動」、社会とのコミュニケーション・企業ブランドなどの「CSR経営活動」の3つの視点に立って、それぞれの活動で考えられるリスク項目を抽出し、リスクアセスメントシートに整理しました。今後は、この整理したリスク項目について、グループ各社へのヒアリングを行い、これまで行ってきたリスクマネジメントに漏れがないかを検証し、リスク対策の強化を図っていきます。

また、地震・災害時の事業継続計画(BCP)については、事業継続マネジメントに関する認証規格などを参考に構築を進めていきます。



リスクアセスメントシート

リスクテーマ一覧

分類	テーマ
製品・サービス・取引などの事業活動に関連するリスクマネジメント	顧客・消費者のニーズを把握する
	社会に有用な製品・サービスを提供する
	自由競争・適正取引
	国際的な広がりへの対応
人事・労務・財務・情報管理などの組織基盤活動に関連するリスクマネジメント	適切な労働条件・労働環境
	適正な財務経理
	適切な情報管理
	反社会的勢力の排除
社会とのコミュニケーション・企業ブランドなどのCSR経営に関連するリスクマネジメント	適切な情報流通・コミュニケーション
	地球環境保全
	社会貢献活動

1 東北3県の児童養護施設に 学習デスクを寄贈しました

小泉産業(株)は、当社グループの事業特性を活かした社会貢献として、
学習デスクを全国の児童養護施設に贈る活動をスタートしました。その第一弾として、2012年3月に、
東北3県(岩手、宮城、福島)の施設に学習デスクを寄贈。
今後も、子どもたちの夢と成長を育む活動として継続していく計画です。

寄贈先の子どもたちや園長さまから感謝の声

小泉産業では、東日本大震災の被害を受けられた地域の復興支援として、日本赤十字社への寄付などを実施しましたが、当社グループの事業特性が活かせる社会貢献活動をかねてから模索していました。その中で、全国の児童養護施設の子どもたちの支援に取り組むNPO法人キッズ・ドリームパートナーズと出会い、同NPOの協力を得て、学習デスクの寄贈が実現しました。

グループの家具事業会社、コイズミファニテックの製品である学習デスクを寄贈したのは、岩手、宮城、福島の東北3県の13カ所の児童養護施設です。3月9日に福島市の「青葉学園」で寄贈式を行い、3月下旬までに各施設に学習デスク40台と椅子51脚を届けました。

その後、各施設からは園長さんや子どもたちからたくさんのお礼の手紙や、寄贈した学習デスクで勉強しているようすを撮った写真が届きました。小学生になりたての1年生から、中学生になってやっと新しい机に替えてもらった子どもまで、それぞれの喜びや希望に溢れた手紙をグループ報などに掲載し、全従業員で共有しました。

ステーキホルダーからの声 子どもたちへの最高のプレゼントに感謝しています

私どもは児童養護施設へさまざまな支援をしている団体です。昨年3月11日に起きた東日本大震災以降、岩手県、宮城県、福島県の19施設への支援をさせていただいてきましたが、今回、小泉産業様からも大きなご支援がありました。虐待や育児放棄をされた子どもたちの「心の傷を癒す」最初のきっかけは、学習机での学びだと思えます。心傷は絵を描いたり、文章にすることで癒されます。今回のご支援は子どもたちに最高のプレゼントとなりました。児童養護施設は全国に585カ所もあり、施設の子どもの約9割には親がいます。しかしながら、クリスマスもお正月も施設でしか迎えられない子どもたちが多くいることを知っていただきたく思います。小泉産業様の子どもたちへの愛情は、必ず彼らの未来に明るい希望をもたらします。すばらしいプレゼントに対して感謝しかありません。



NPO法人 キッズドリーム パートナーズ
理事長

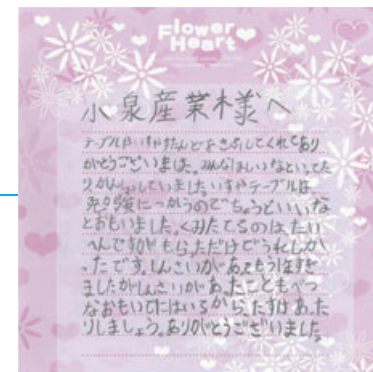
山本 敏幸 様



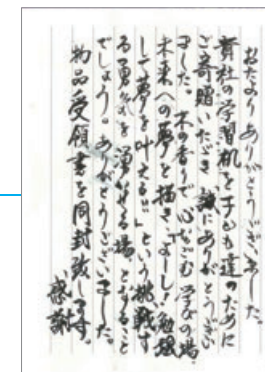
NPO法人
キッズドリーム パートナーズ

全国の児童養護施設で生活する子どもたちの成長と自立を促す物質的・精神的支援を行い、子どもたちの健全な育成に寄与することを目的に、2009年に設立されたNPO法人。直接支援、医療・食育支援、自立支援などのほか、施設で生活する子どもたちをサポートするさまざまな活動を展開しています。

<http://www.kids-dream.org/>



子どもたちからのお手紙より



園長さまからのお礼状より



新しいデスクで早速勉強

活動を全国の児童養護施設に展開し、 子どもたちの夢と未来を育んでいきます

学習デスクを寄贈した児童養護施設は、東日本大震災によってこれまでの地元企業からの支援が滞りがちになっていたこともあり、今回の当社グループの活動を心から喜んでいただきました。寄贈式を行った青葉学園の園長さまによると、子どもたちに自信を持たせ、自立を支援していくには、何よりも教育が大切とのこと。当社の学習デスクが子どもたちのより良い学習環境づくりに大いに役立っているようです。

震災の被害を受けられた地域への支援からスタートした活動ですが、今後は活動を全国の児童養護施設に拡大していく計画です。現在、全国に585カ所の施設があり、保護者や家庭の事情のために入所している子どもたちが3万人もいるとのこと。私たちは「子どもたちの夢と未来を育む」という学習家具事業の趣旨にのっとり、全国の施設で暮らす子どもたちの将来を応援していきます。



福島市「青葉学園」での寄贈式
(右)青葉学園 神戸園長様
(左)小泉産業 権藤常務

従業員の声 机を基地に、すくすく育て欲しい

当活動の企画立案・推進を担当しています。今年3月、まだ雪の残る福島市の青葉学園にデスクをお届けしました。ここをはじめ13施設の子どもたちが、この机を生活の基地として毎日暮らしていきます。まるで、夏に向かって成長するアサガオの二葉に、添え木を添えることができたかのような気持ちです。すくすく伸びて、元気に咲いて欲しいと思います。



小泉産業(株)
経営推進室 CSR推進グループ

塚本 雅夫



デスク
UDD-421NS

椅子
CDC-506NS

2 全国で節電活動を展開し 東京支社の電力使用量を36%削減

当社グループは、東日本大震災の影響による電力不足に対応して、全国で節電に取り組みました。特に2011年夏の電力使用制限令をふまえ、東京支社をはじめとする東京電力管内の事業所では、施設照明のLED化、オフィス照明器具の50%以上の間引き減灯、ショールームの平日休館(火・水曜)の固定化による土日営業へのシフト、展示照明器具の確認時のみ点灯の実施など、可能な限りの対策を実施しました。

こうした結果、東京支社ショールームビルの8月の最大電力を2010年同月比24%カット、使用電力量では36%削減しました。

また、今後のエネルギー需給の変化に対応するための設備投資として、本社社屋の空調設備を、年間を通して電力使用量を抑制できるガスヒートポンプ式に入れ替え、2011年11月から運用を開始しました。



3 「使用済み切手」収集ボランティアで途上国の 妊産婦と女性を守る活動を継続的に支援

途上国の妊産婦や女性の命と健康を守るために活動している国際協力NGO ジョイセフへの「使用済み切手」寄贈を、2009年度から行っています。アジアやアフリカなどの途上国では診療所の数が不足し、妊娠や出産の際に輸送手段がない村がたくさんあります。寄贈した切手は換金されて、助産師や保健ボランティアが「命を救う足」として使う再生自転車を現地に送る輸送費として役立てられます。2011年度は合計3.05kgの使用済み切手を寄贈することができました。

今後は、寄贈状況を朝礼時に紹介したり、社内イントラネットで共有し、参加事業所数を拡大していきます。



4 「企業のコンプライアンス」をテーマに 大学への出前講義を継続的に実施

小泉産業では、2008年度から大学生に向けて「企業のコンプライアンス(法令遵守)」を題材にした出前講義を実施しています。インターンシップや就職活動という大切な時期を控えた大学生にコンプライアンスについて教えるということは、学生だけでなく、社会に対しても有益な働きかけであり、ひとつの社会貢献であると考えています。

2011年度は、4回の出前講義を実施し、延べ300名の学生が受講しました。講義では、企業での社会人経験がない大学生にもコンプライアンスを感覚的に理解できるよう、単なる説明にとどまらず、学生と社会人の立場の違いや、企業と社会のかかわりなどにも踏み込んだ内容にするなどの工夫をしました。2012年度は、大学間や産官学の連携を深めることなどを目的としたNPO法人大学コンソーシアムなどを通じて出前講義を実施し、より多くの大学生にコンプライアンスに触れる機会を提供していきます。



5 NPOと連携しAED講習会を サポートするとともに従業員の救命員化を推進

当社グループは、全国のコイズミ照明のショールームや来客者の多い事業所など7カ所に、AED(自動体外式除細動器:突然心停止した人に除細動と呼ばれる電気ショックを加える装置)を設置しています。

また、AEDを使った心肺蘇生法の普及を図るNPO 法人大阪ライフサポート協会が開催する一般市民対象のAED講習会に、2009年度から小泉産業本社の大会議室を会場として提供しています。2011年度は5回の講習会が実施され、73名が参加。当社グループの従業員も11名が受講。これまでに救命員として必要な講習を受講した従業員の総数は273名になりました。

2012年度も継続して、講習会の会場を提供し、近隣の企業にも参加を働きかけていきます。



6 全国地域清掃活動の実施率100%を達成

当社グループでは、以前から各地区の事業所において、周辺の清掃活動を実施していますが、2010年度からはグループの統一活動として全国レベルで推進、実施しています。各事業所の計画立案、実施の状況を社内イントラネットなどを通じて全社に発信。2010年度は実施率71%でしたが、2011年度は、北海道から沖縄まで全53カ所の事業所で清掃を実施し、100%を達成。清掃後の清々しい気持ちを全国で共有することができました。こうした活動は近隣の皆様とのコミュニケーションが生まれるきっかけにもなっており、今後も継続していきます。



7 照明文化の向上と若き人材の育成をめざす 「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」

コイズミ照明は、「照明文化の向上と若き人材の育成」をめざして、1987年から「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」を開催しています。毎年、地球と人間の未来に関わるテーマを世界中の学生に投げかけ、新しいあかりのあるべき姿について具体的な提案を募集。2011年度末までに世界42カ国、33,000名を超える学生から応募がありました。当コンペは、世界の若手照明デザイナーの登竜門のひとつとして位置づけられ、世界の各方面から高い評価をいただいています。

最近では、熱くならないLEDやフレキシブルな素材である有機ELの特徴を活かして、「触れる」「曲げる」「動かす」などのインタラクティブな作品が増えており、照明が身近なものとして捉えられるようになってきたことの現れだと考えています。

第25回となる2011年度は「光のかたち——多様化するテクノロジーを包む、豊かなあかり」をテーマに作品を募集し、国内から524点、海外から345点の応募がありました。



快適な空間づくりのパイオニアとして

グループ経営理念にある「新しい着眼と独自の発想」から生み出された数多くのKOIZUMIブランドの製品は、常に市場に新鮮な驚きと好感をもって受け入れられてきました。これからも快適な空間づくりのパイオニアとして、人と社会に夢と感動を提供し続けていきます。

KOIZUMI HISTORY

1716 創業 始祖小泉武助行商開始
1738 近江屋新助商店設立
1871 近代創業 立木屋森之助商店開設(大阪)
1904 社章を❖に制定。「小泉合名会社」設立
1941 株式会社小泉商店設立
1943 大阪で航空機ゲージの加工販売業・五光精機工業を買収し、五光精機工業株式会社設立

1716~

1953 燃料ルートから家電ルートへ
石油コンロ

昭和28年、石油を燃料とする新しい調理器具、石油コンロを開発。この種の商品は燃料店で販売されていましたが、当社が初めて電気店ルートで販売を開始し、予想を超える大ヒットとなりました。



1965 デザイン豊かなあかりで暮らしを楽しく
インテリア照明

昭和30年代、照明はまだただ照らすだけの道具でした。コイズミは暮らしに夢と豊かさを提供するため「あかりはインテリア」のキャッチフレーズのもと、照明器具にデザイン性を吹き込み、選ぶ楽しみや使う喜びにあふれる華やかな照明の分野を築きました。



1967 料理のできるダイニングテーブル
クックテーブル「晚餐」

住居の洋風化に合わせてダイニングテーブルを販売するなかで、コイズミは鍋料理の不便さに着目。ガスコンロの準備の手間をいかに省くか。こんな出発点から料理のできるダイニングテーブル「晚餐」が開発されました。発表直後から新しい生活提案として爆発的にヒットしました。



1946~

1971 照明器具付学習机
ライダーデスク

昭和41年、めざましい経済発展によって人々の生活にゆとりが生まれ、教育熱が高まりました。これにともなって子ども部屋、勉強机の需要が活発になってきました。コイズミは、自社の照明技術を活かして、業界初の「蛍光灯付学習机・蛍雪」を発売。46年には蛍光灯+白熱灯の「ライダーデスク」を発表。仮面ライダーのキャラクター人気と合わせ空前の大ヒットとなりました。



1973 年間通じて使える新コタツ
家具調コタツ「四季の集い」

昭和48年には家具調コタツ「四季の集い」を開発。それまでのコタツの概念から離れ、インテリア性の高い座卓に暖房機能を付加した製品は、年間を通じて使える全く新しいジャンルの家具として一世を風靡しました。



1978 棚を外せば高校まで
6・3・3で12年

それまで学習机と言えば、本体と棚の一体型が主流でした。コイズミは上級生になれば、平机として永く使えるよう棚の取り外しと素材・構造の耐久性を実現し、「6・3・3で12年」のキャッチコピーとともに、広く普及しました。



1978~

1987 学生を対象とした世界唯一の照明コンペ
コイズミ学生照明デザインコンペ

1987年、若き人材の育成と照明文化の普及を目的に、世界の学生を対象とした照明のデザインコンペを創設。他に類を見ない当コンペはたくさんの方々の賛同をいただきながら、以来23年間に世界41か国、3万人の学生が参加。受賞者たちは照明、建築、インテリアなど各界で活かしています。



1988 時代を変えた省エネ照明
インバータ照明器具

省エネの潮流を背景として、高効率、静音、瞬時点灯などの特長を持つ照明のインバータ回路が開発されましたが、コイズミは専門業界でいち早く製品化に取り組み、充実の品揃えで皆様のご要望にお応えしました。



1990 学習机の新しい常識
インバータデスク

照明の分野で早くからインバータ器具の開発に取り組んでいたコイズミは、学習デスクの照明にも業界に先駆けてインバータライトを導入。これによってデスクの新しいスタンダードを確立しました。



1991 直営照明器具製造工場・コイズミライティング(株)設立
1995 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.設立
1999 コイズミ物流(株)設立

1991~

1990 体感型照明ショールーム
コイズミライティングシアター/イズム

照明器具から出る光がどんな空間をつくり出すか、これが商品を見るだけではわからない照明選択の泣き所でした。コイズミはショールームづくりに「体感」の概念を導入し、従来のコーディネート中心の考え方に新風を吹き込みました。各種のシミュレーション装置によって納得のいく器具選びが実現しました。



1991 クセ字を学習する発注書読取システム
FACE(フェイス)

「手書き文字のコンピュータ読み取り」は受発注の効率化には避けて通れないテーマでした。この解決手段のひとつに人が機械用の文字を書くOCR方式がありますが、コイズミの情報システム部門は人それぞれの文字を癖まで読み取るシステムを開発。極めて高い読み取り精度が認められ商品として販売を開始。現在も多数の企業にご採用いただいています。



1994 ファンクション&コンパクト
生活家具

80年にコイズミが打ち出したコンセプト「家具=生活道具」は、常に暮らしを見つめる姿勢から生まれたものです。そして94年、ついに次のステージのキーワード「生活賢具」が生まれました。発売されたアイテムはすべて、知恵のある道具としてお客様を唸らせました。



2000~

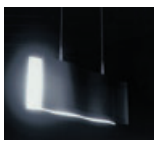
1998 その空間に最適な光を生み出す
E.L.H.

住宅のそれぞれの空間に必要な光はどんな光か。この課題に真正面から取り組んだ製品群がE.L.H. (Environment Lighting Harmony) です。目的配光と高効率化を独自の配光制御技術によって高度な次元で両立したシリーズです。以降、本シリーズは毎年拡充され、その後の住宅照明のあり方に大きな影響を与えました。



2003 照明のワールドワイドデザイン
D-ACTION

コイズミ独自のグローバルなネットワークを活かした世界のトップデザイナーによるシリーズです。クリエイターの圧倒的な個性、洗練されたデザインとともに明確な機能性も備えています。



2003 学習家具のワールドワイドデザイン
K-ACTION

子どもの生活研究をベースにデザイン活動を行うイタリアのデザイナーと、子ども部屋家具のノウハウを持つコイズミのコラボレーションから生まれた新ジャンルの製品は、これまでの学習家具の流れを一変させるものとして内外から大きな期待が寄せられました。



2006 21世紀の学習家具のトレンド
ステップアップデスク

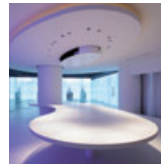
「机+上棚」から「机+書棚」への発想転換。これによって机と書棚が合体式、分離式どちらも使えるようになり、お子様の成長に合わせてレイアウトも使い方も自由自在にステップアップできるようになりました。翌年発表された業界の新製品の主流は、ほとんどがこの方式となりました。



2005~

2007 あかり文化を創造する新拠点
OBAL

光の探究は照明専門メーカーとしての使命です。2007年夏、コイズミは光の本質を探究する独自の研究施設を開発し、東京ショールーム上層階に「OBAL」と命名して開設しました。国内外のクリエイターや異業種各社と手を携え、空間の可能性を探り続けています。



2008 世界で初めて製品化に成功
超高演色LED

2008年、環境の時代の最先端の光源であるLEDを搭載した「cledy」シリーズを発表。2009年には、山口大学との共同研究により、平均演色評価数(物の色を自然に見せる度合)97という驚異的な性能を世界に先駆けて開発。「快適な視環境づくり」をめざすコイズミが、LEDの新たなステージを築きました。



2010 エイジング電動ベッドの先進機能
らくアップモーション

高齢者の寝起きをサポートする、コイズミのエイジング電動ベッドの動作機能「らくアップモーション」。中でも背部が上がりきっても脚部をフラットにする「フットフラット」機能は、従来の2モーターでなく1モーターで動作(特許申請中)。新開発のシンプルな機構が、さまざまなメリットを生み出しています。

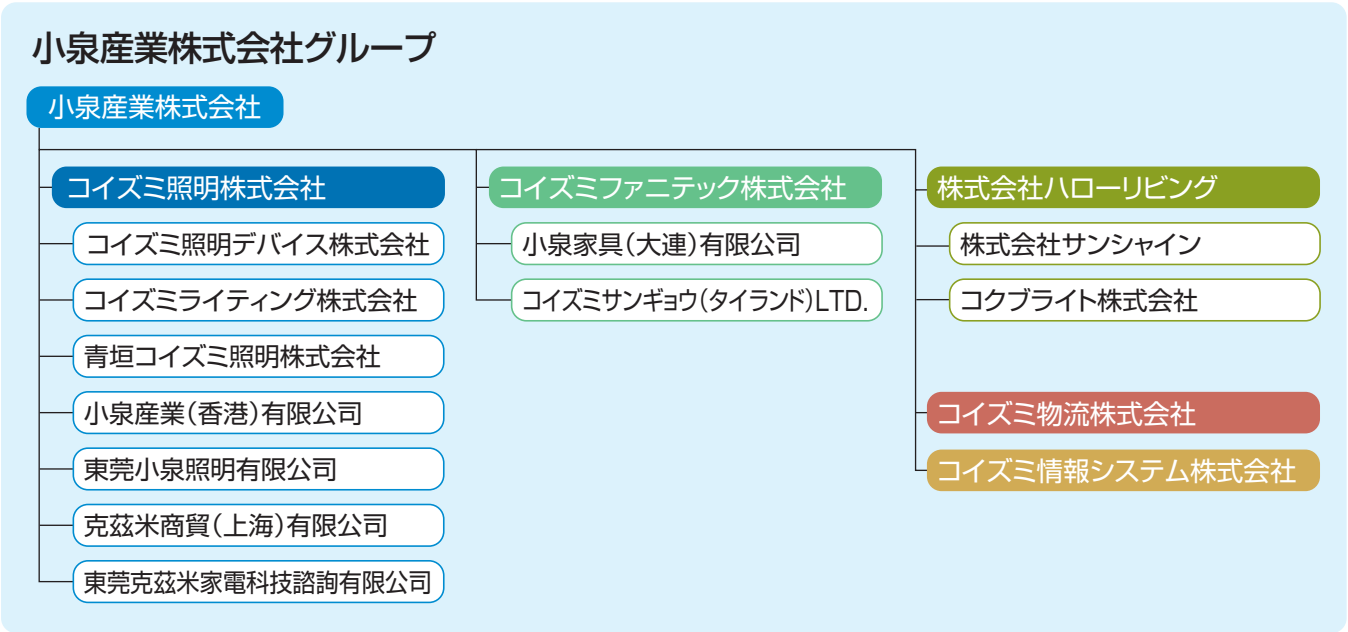


2011 光と化学の融合
LED導光板照明

アクリルの端面に光を当て、アクリル面全体を光らせる「エッジライト方式」。この方式は、発光面の均質性や光のロスが課題でした。コイズミは、この課題の解決策で特許を持つ住友化学様とコラボレーション。高効率、均質性に加え、光の柔らかさを備えたLED導光板照明を発売しました。



小泉産業株式会社グループ各社の概要



小泉産業株式会社(単体)

商 号 小泉産業株式会社
本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7
代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸
創 業 1716年(享保元年)
設 立 1943年6月25日
資 本 金 1,575百万円
従 業 員 39名
事 業 内 容 持株会社
子 会 社 16社(うち連結対象 8社)
売 上 高 1,380百万円

コイズミライティング株式会社

商 号 コイズミライティング株式会社
本社所在地 〒529-1512
滋賀県東近江市大塚町1289-2
代 表 者 代表取締役社長 村上 貴英
設 立 1966年10月20日
資 本 金 100百万円
従 業 員 112名
事 業 内 容 照明器具の製造
売 上 高 2,881百万円

東莞小泉照明有限公司

商 号 東莞小泉照明有限公司
本社所在地 No.12, Information & Industry
Garden, Xihu District, Shilong
Town, Dongguan City,
Guangdong Province, P.R.China
代 表 者 董事長 谷垣 正則
設 立 2009年7月20日
資 本 金 HK\$2,000,000
従 業 員 190名
事 業 内 容 照明器具の開発設計・組立製造・
販売
売 上 高 95,483千元

コイズミ照明株式会社

商 号 コイズミ照明株式会社
本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7
代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸
設 立 2006年4月1日
資 本 金 450百万円
従 業 員 583名
事 業 内 容 照明器具の企画・開発・製造・販売
売 上 高 30,219百万円

青垣コイズミ照明株式会社

商 号 青垣コイズミ株式会社
本社所在地 〒669-3841
兵庫県丹波市青垣町
口塩久町田733-5
代 表 者 代表取締役社長 中島 誠一
設 立 2010年4月5日
資 本 金 80百万円
従 業 員 124名
事 業 内 容 照明器具の製造
売 上 高 2,787百万円

克茲米商貿(上海)有限公司

商 号 克茲米商貿(上海)有限公司
本社所在地 RM1105.Tower NO.440.
Zhong Shan RD.(S.2)
Shanghai.China
代 表 者 董事長 杉本 健
設 立 2006年11月15日
資 本 金 US\$400,000
従 業 員 23名
事 業 内 容 照明器具の企画・販売他
売 上 高 41,906千元

コイズミ照明デバイス株式会社

商 号 コイズミ照明デバイス株式会社
本社所在地 〒579-8025
大阪府東大阪市宝町12-5
代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸
設 立 1981年6月8日
資 本 金 10百万円
従 業 員 18名
事 業 内 容 LED用部材・電子安定器・ランプ・
他照明器具構成部品の販売及び
輸出入、照明器具組立
売 上 高 9,841百万円

小泉産業(香港)有限公司

商 号 小泉産業(香港)有限公司
本社所在地 Unit 1207, 113 Argyle Street,
Mongkok, Kowloon, Hong Kong
代 表 者 董事長 梅田 照幸
設 立 2002年3月11日
資 本 金 HK\$2,078,000
従 業 員 3名
事 業 内 容 照明器具の企画・開発・製造・販売
売 上 高 HK\$156,852,000
(2011年4月~12月)

東莞克茲米家電科技諮詢有限公司

商 号 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
本社所在地 3F, No.28, Wenquannan Lu,
Shilong Town, Dongguan City,
Guangdong Provinces, China
代 表 者 董事長 梅田 照幸
設 立 2008年6月2日
資 本 金 US\$250,000
従 業 員 31名
事 業 内 容 家電・照明器具の企画・開発、
照明設計、品質管理等の
コンサルティングサービス
売 上 高 4,155千元

コイズミファニテック株式会社

商 号 コイズミファニテック株式会社
本社所在地 〒557-0063
大阪市西成区南津守2-1-30
代 表 者 代表取締役社長 永安 勝壽
設 立 2006年4月1日
資 本 金 80百万円
従 業 員 89名
事 業 内 容 学習環境家具及び介護機器等の
企画・開発・製造・販売
売 上 高 5,602百万円

株式会社ハローリビング

商 号 株式会社ハローリビング
本社所在地 〒579-8025
大阪府東大阪市宝町12-5
代 表 者 代表取締役社長 石尾 泰裕
設 立 1981年7月2日
資 本 金 20百万円
従 業 員 30名
事 業 内 容 住宅設備機器の販売・取付工事
売 上 高 1,656百万円

コイズミ物流株式会社

商 号 コイズミ物流株式会社
本社所在地 〒579-8025
大阪府東大阪市宝町12-5
代 表 者 代表取締役社長 阿部 邦夫
設 立 1999年5月25日
資 本 金 50百万円
従 業 員 101名
事 業 内 容 貨物自動車運送取扱事業、
貨物自動車運送事業、倉庫業
物流システム開発販売業務、
物流コンサルタント業務、
引越し・据付業務、
その他上記に付帯する関連業務
売 上 高 4,411百万円

小泉家具(大連)有限公司

商 号 小泉家具(大連)有限公司
本社所在地 12/F, Senmao Building, 147
Zhongshan Road, Dalian, China
代 表 者 董事長 永安 勝壽
設 立 2010年5月5日
資 本 金 HK\$210,000
従 業 員 3名
事 業 内 容 学習環境家具・インテリア雑貨の
小売・卸売
売 上 高 1,034千元

株式会社サンシャイン

商 号 株式会社サンシャイン
本社所在地 〒813-0034
福岡市東区多の津3-7-29
代 表 者 代表取締役社長 石尾 泰裕
設 立 1975年7月1日
資 本 金 10百万円
従 業 員 11名
事 業 内 容 住宅設備機器の販売・取付工事
売 上 高 544百万円

コイズミ情報システム株式会社

商 号 コイズミ情報システム株式会社
本社所在地 〒556-0005
大阪市浪速区日本橋5-8-21
代 表 者 代表取締役社長 権藤 浩二
設 立 2001年10月1日
資 本 金 30百万円
従 業 員 54名
事 業 内 容 IT関連のソフト開発及び
コンピュータ機器販売
売 上 高 1,176百万円

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.

商 号 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
本社所在地 26th Floor ITF Tower,
140/64 Silom Road Bangrak
Bangkok 10500
代 表 者 代表取締役社長 宗本 邦嗣
設 立 1995年5月24日
資 本 金 THB5,000,000
従 業 員 8名
事 業 内 容 家庭用家具・店舗用家具・
特注家具・店舗用仕器の企画・
開発・製造・販売
売 上 高 THB72,001,000

コクブライト株式会社

商 号 コクブライト株式会社
本社所在地 〒899-5102
鹿児島県霧島市隼人真孝202-2
メゾン隼人1-C
代 表 者 代表取締役社長 石尾 泰裕
設 立 1985年3月20日
資 本 金 10百万円
従 業 員 4名
事 業 内 容 住宅設備機器の販売・取付工事
売 上 高 124百万円

(売上高は2011年度実績)

編集後記

当レポートは、昨年度より「コミュニケーションレポート」にタイトル
を変更し、直近1年間のCSRへの取り組みをはじめとする、社会へ
のお役立ち状況をお伝えすることを主眼に編集しています。
今回も、昨年度の主な活動を集約として取り上げて、その概要をご
紹介するとともに、お客様や関与いただいている方々がどのようにお
感じなのかを掲載いたしました。そして、その活動に従業員がどんな
想いを込めたのかを掲載いたしました。社長の想い、従業員の想い

こそ、企業活動の源。そしてこのレポートの核と考えています。どう
かご一読いただき、当社グループに対するご理解を深めていただい
ければ幸いです。
最後になりましたが、編集に際しましては、たくさんの方々のご
協力をいただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして
お礼申し上げます。

グループ経営統括部 経営推進室 CSR推進グループ

小泉産業株式会社

発行：経営推進室 2012年7月

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7

TEL.06-6262-1391 FAX.06-6262-1296

E-mail csrinfo@koizumi.co.jp

<http://www.koizumi.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、岩手県の森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



印刷工程では、有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。